



PSLX

のあゆみ

PSLXのいままで、そしてこれから



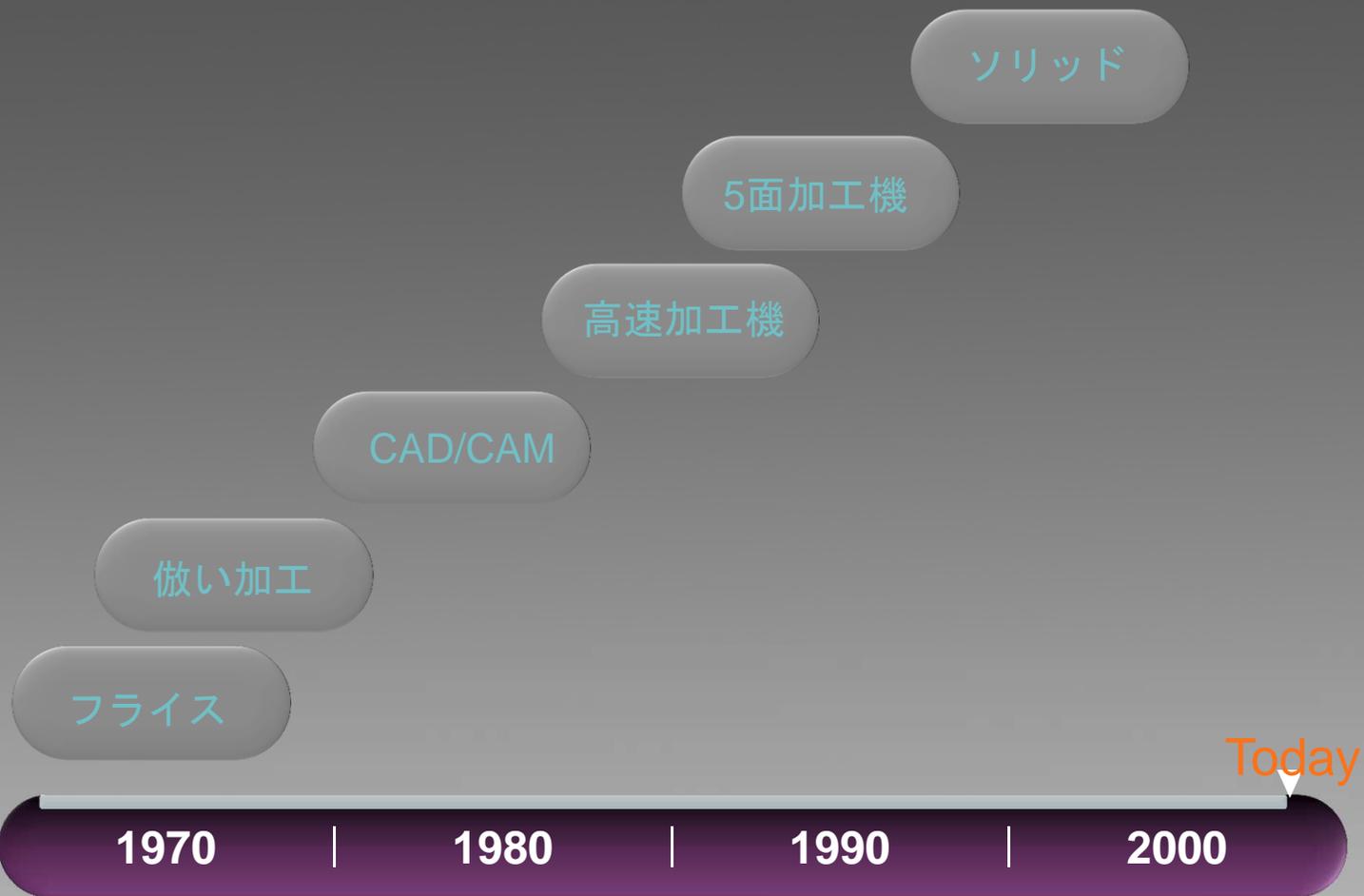
NPO法人ものづくりAPS推進機構（APSOM）

教育普及委員長 伊藤 昭仁

（株式会社 シムトップス シニアソリューションアーキテクト）

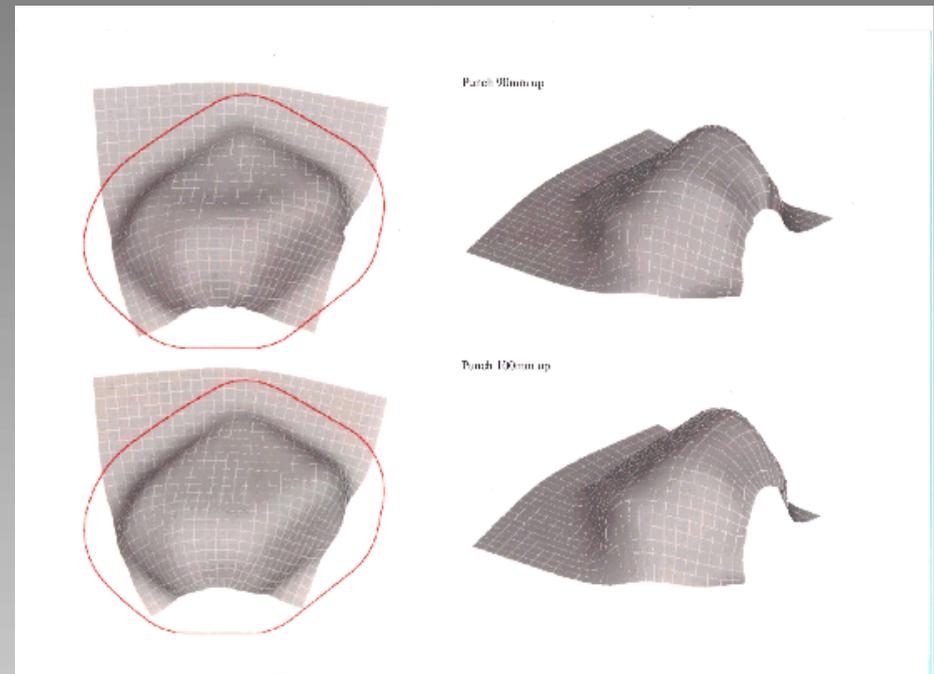
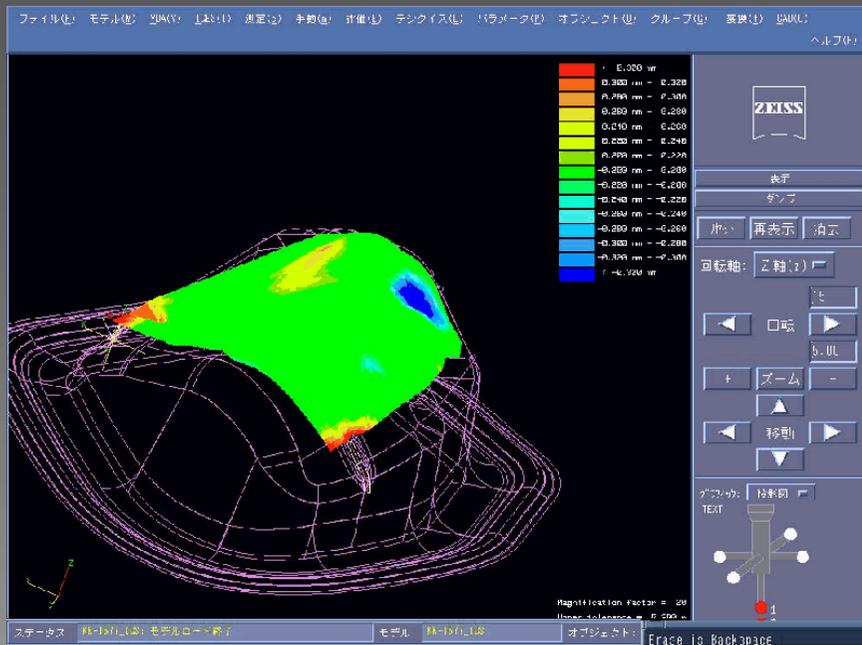
CAD/CAM





玉成





製品企画力と生産技術力



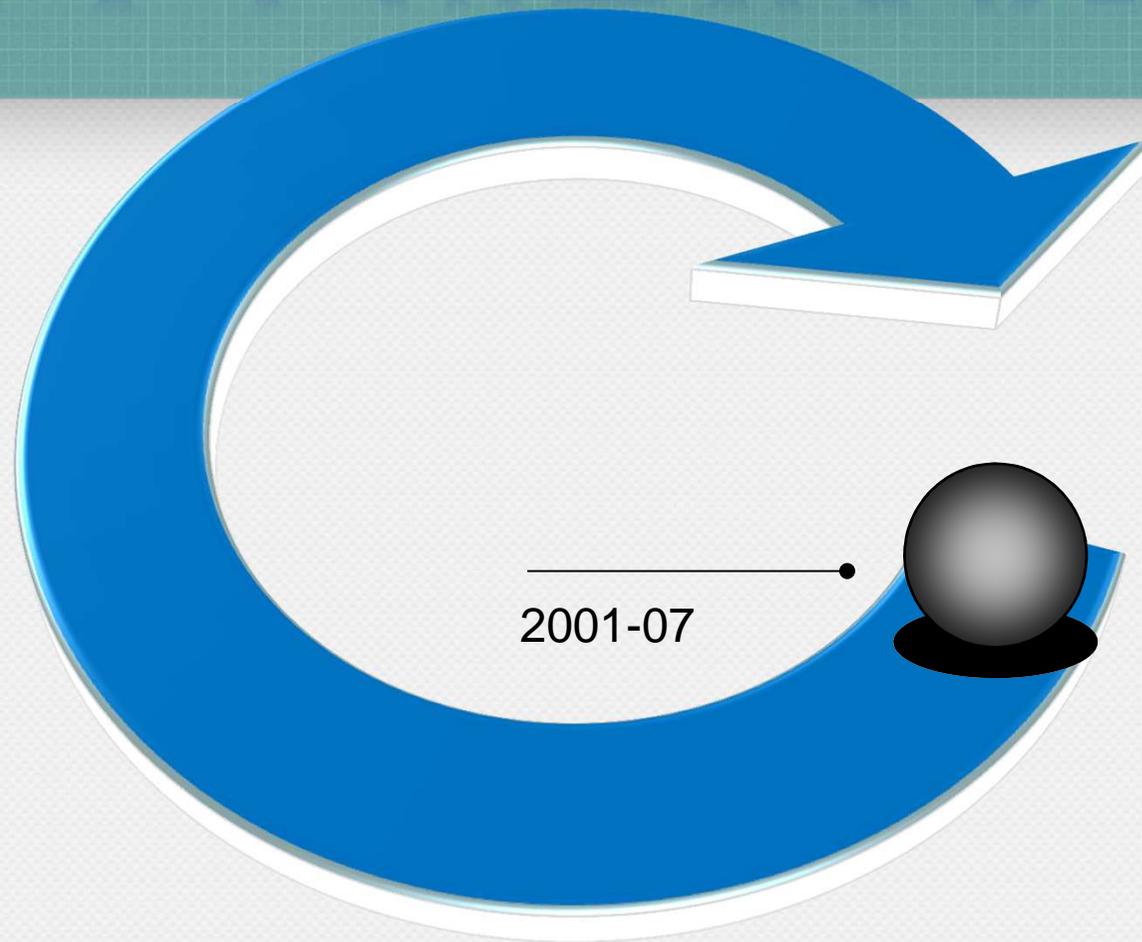
日本人にとって、
ものづくりは、
伝統であり文化であるともいえます。



製造現場を中心とした日本的なものづくりを、
最先端のITと融合させるためのキーテクノロジーである
APS（先進的計画スケジューリング）により、
製造の現場、
設計の現場、
そして販売の現場を連携し、
目で見える管理と、
人中心の問題解決を支援します。



PSLXコンソーシアム設立

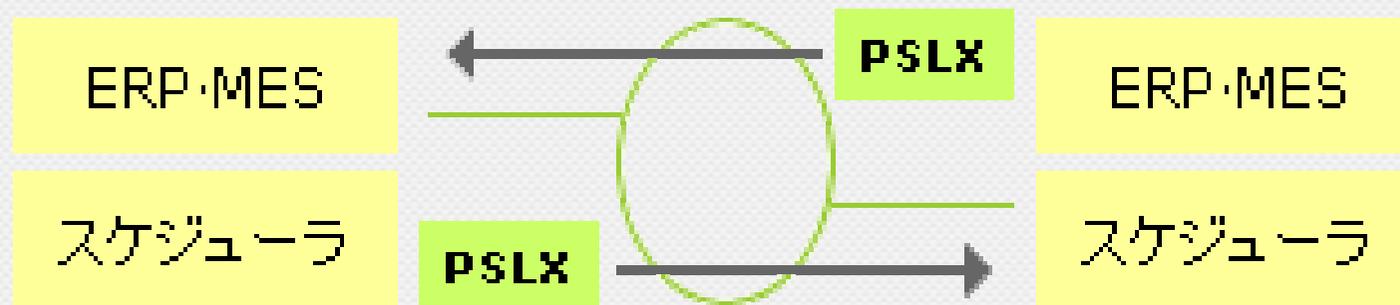


2001-07



PSLXとは、インターネット上での利用を前提とした、生産計画・スケジューリングに関する情報記述の標準仕様です。

Planning and Scheduling Language on XML specification



品目

原材料、中間製品、最終製品など、消費または生産するものの単位

資源

機械や作業員など、一定の期間を拘束されるものの単位

(リソース)

時間

すべてのモノが持つ属性で、先行関係などの制約を定義する基本単位

作業

一定の時間幅をもつ計画を行う基本単位。品目と資源を結びつける。

(オペレーション)

事象

ジョブの開始や終了など一時刻上で行われる変化を表す基本単位

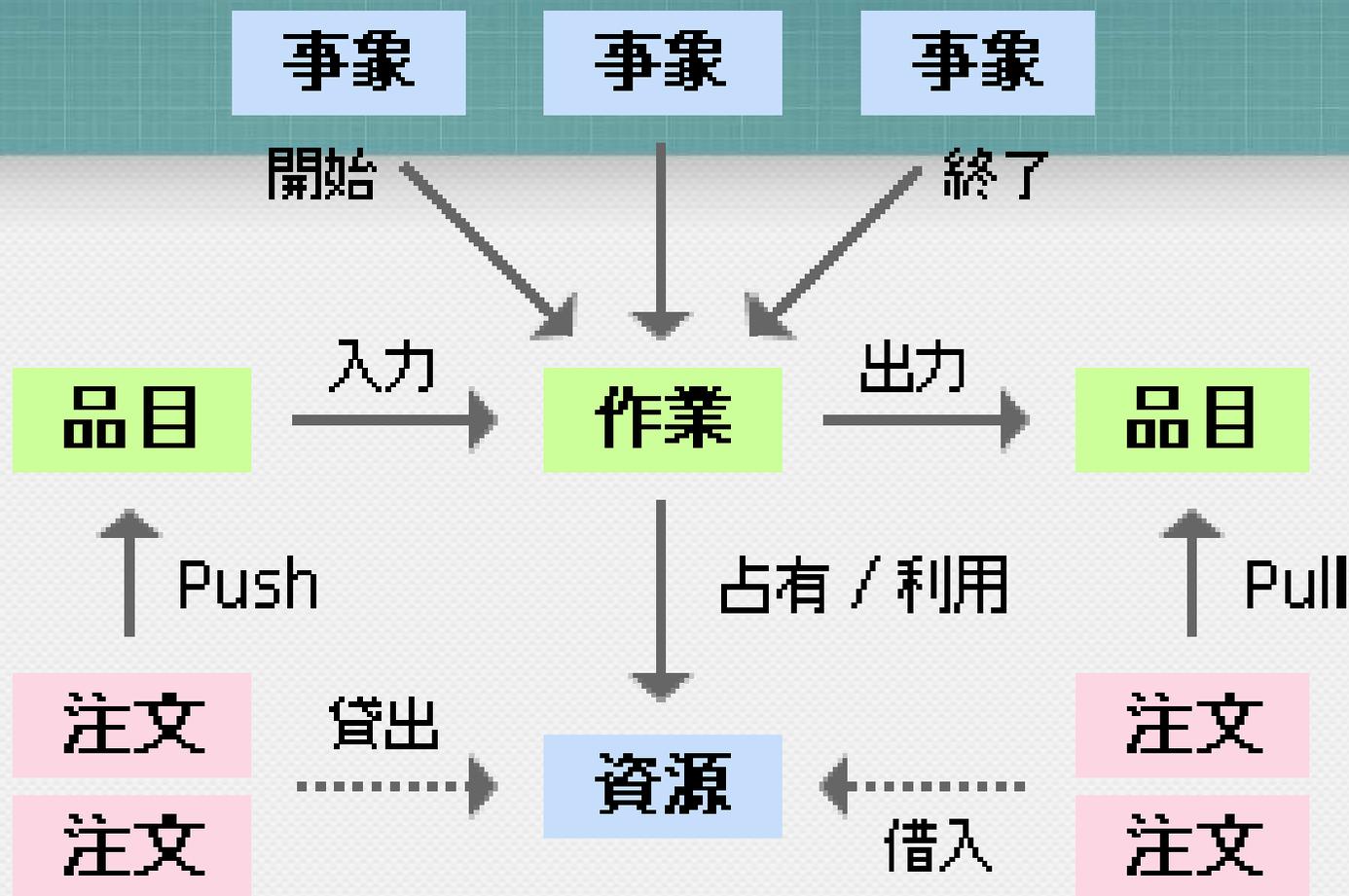
(イベント)

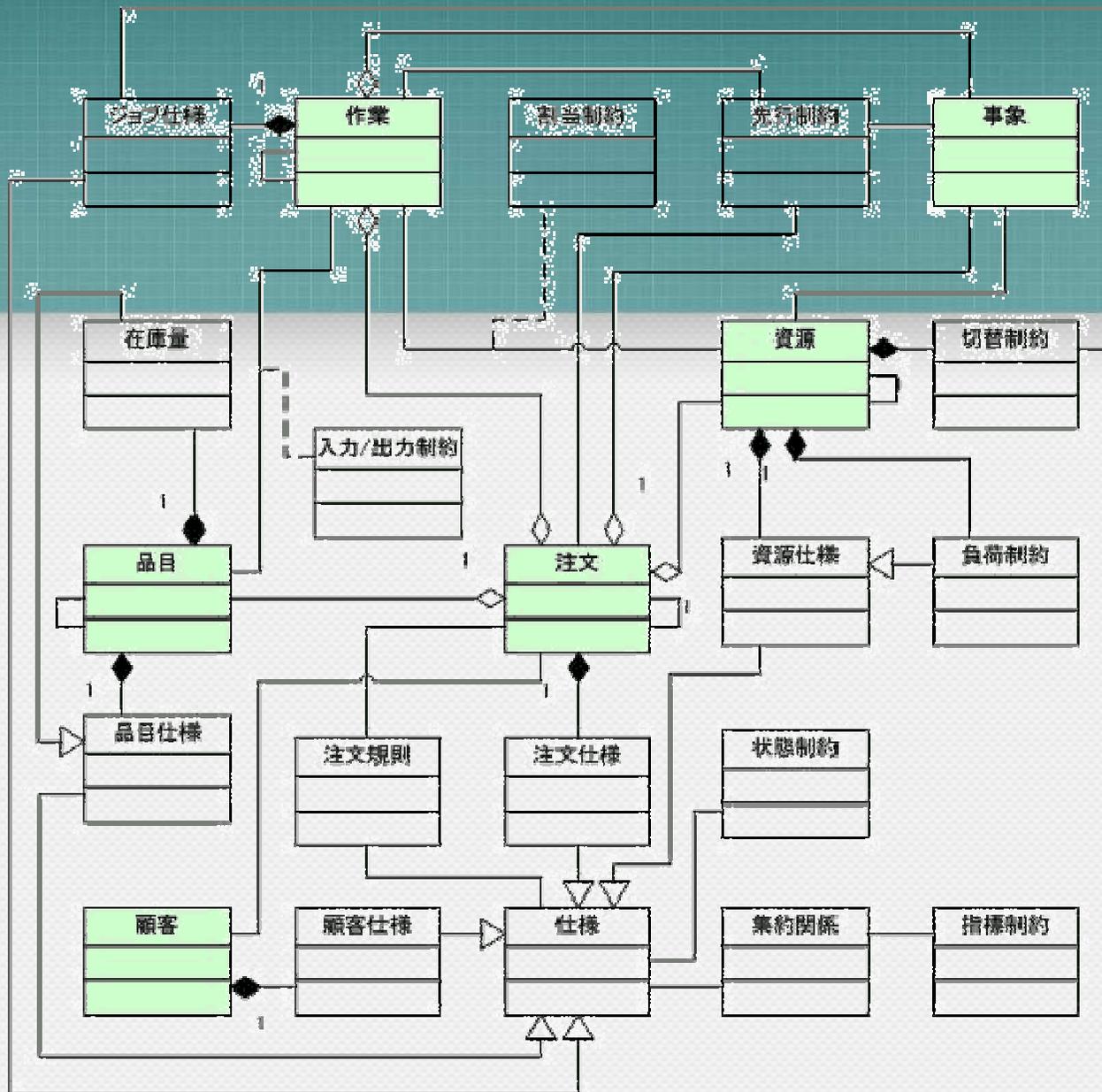
注文

品目や資源の状態を変化させる要求を表す基本単位

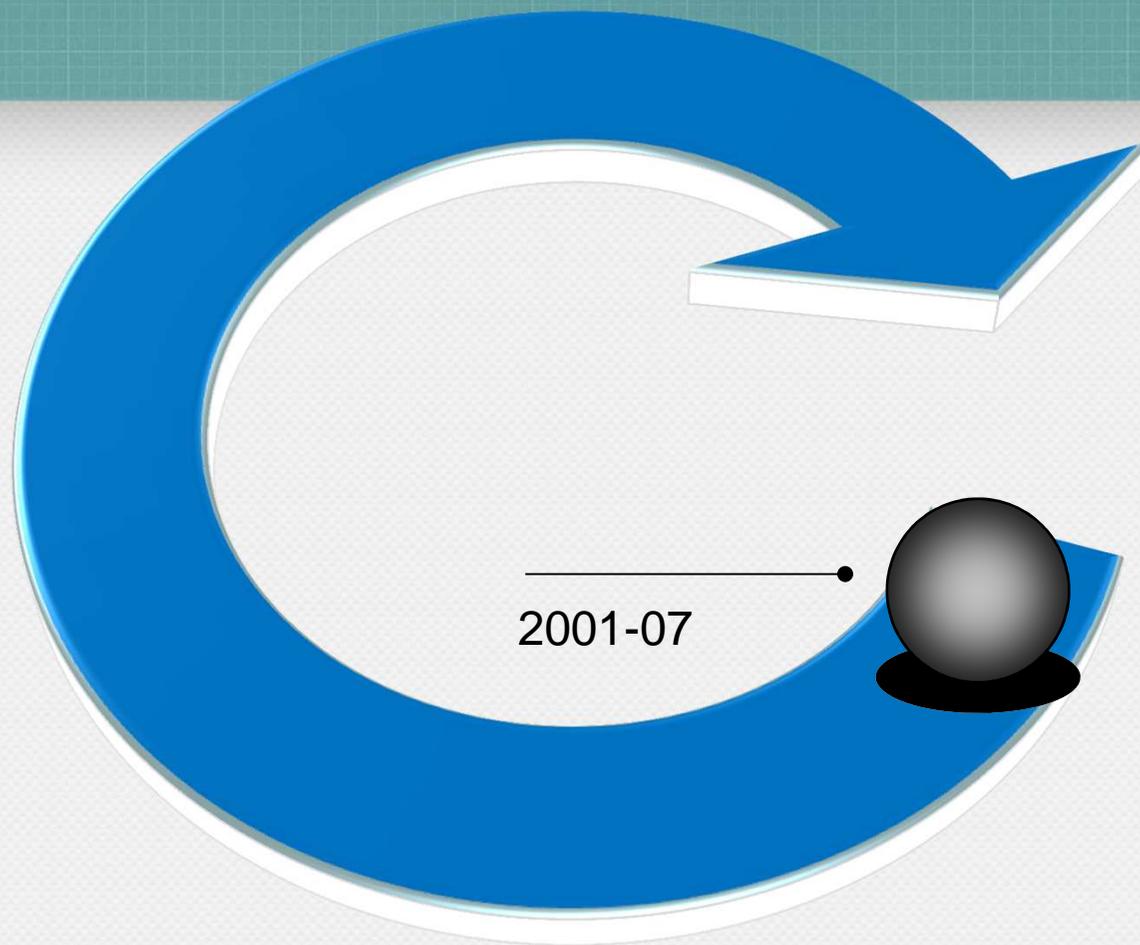
(オーダー)







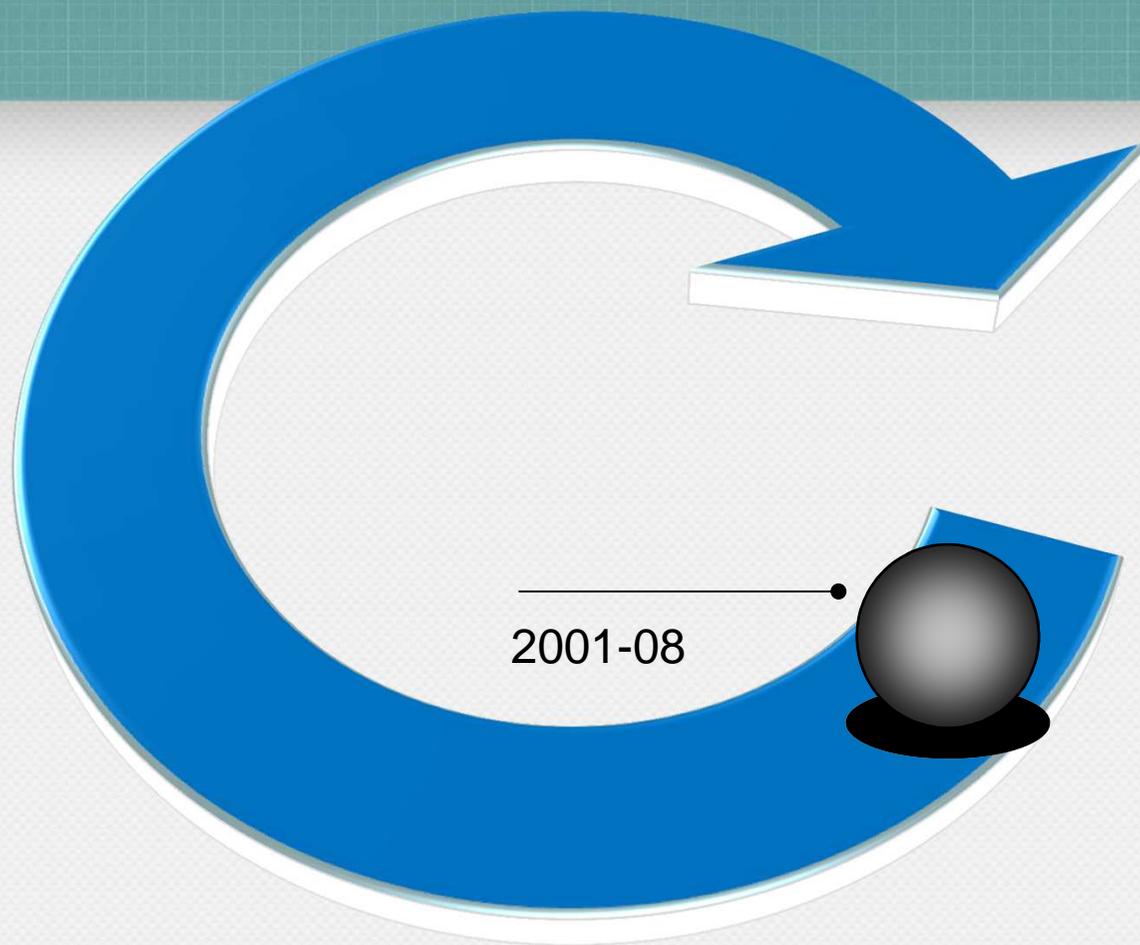
IPA未踏ソフトウェア創造事業への応募 「XMLによる生産スケジューリング標準インターフェースの開発」 が採択



2001-07



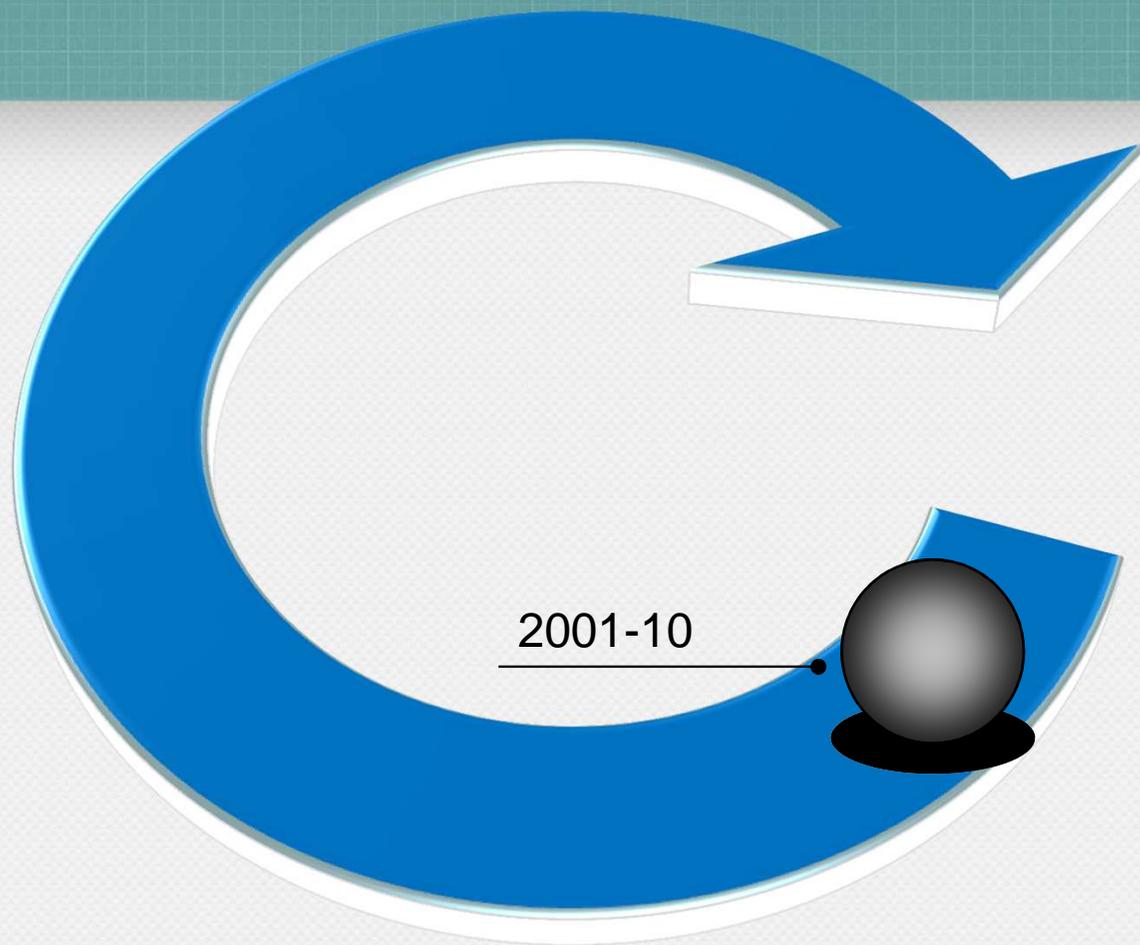
第一回技術専門委員会を開催



2001-08



第1回セミナーを開催



2001-10



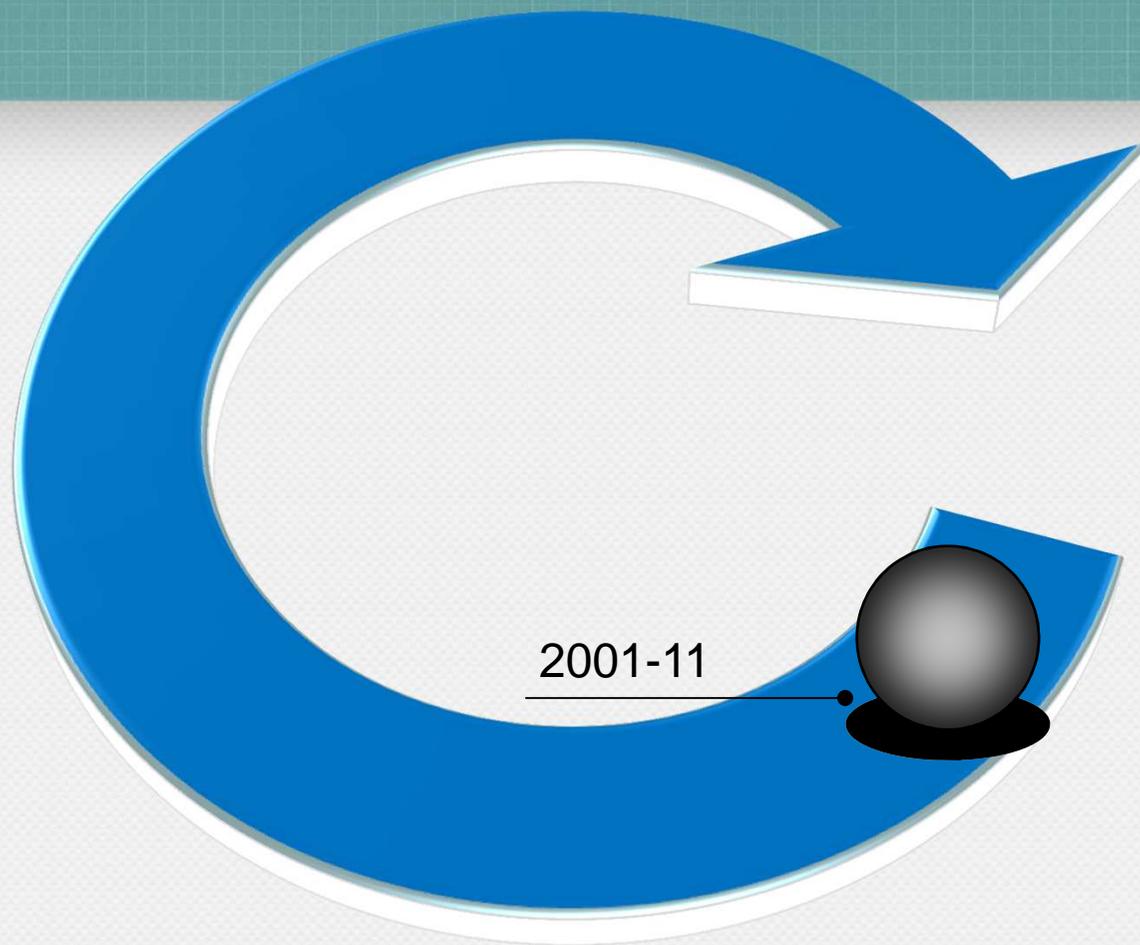
ものづくりAPS推進機構

- 日時：10月3日（水）の9：30～16：30
- 場所：アルカディア市ヶ谷
- 参加者：56名（うち非会員12名）

時刻	内容	講演者	資料
9：30～ 9：40	PSLXセミナー開会挨拶 <風景>	コンソーシアム代表：安田一彦 (東北大学大学院)	
9：40～ 10：20	日本の製造業がかかえている 重大な問題点 <風景>	手島歩三 (MASPアソシエ ーション)	Download
10：20 ～ 11：30	PSLXによる製造業のグランド デザインの考え方 <風景>	山田太郎 (ネクステック株式会 社代表取締役)	Download
11：30 ～ 12：00	生産計画・スケジューリング の統一用語辞書 <風景>	西岡靖之 (法政大学)	Download
13：00 ～ 13：30	XMLの読み方、使い方 <風景>	ゲスト：野村直之 (ジャストシ ステム)	
13：30 ～ 13：50	インターネットコア技術と PSLXの関係 <風景>	渡辺哲弥 (東洋エンジニアリン グ株式会社)	Download
13：50 ～ 14：50	PSLX仕様の概要とスケジュー ラへの組み込み <風景>	西岡靖之 (法政大学)	Download
15：00 ～ 16：00	APSのオブジェクトモデリン グによる記述 <風景>	児玉公信 (株式会社エヌケーエ クサ)	Download
16：00 ～ 16：20	XML/EDI標準化の国内 および海外動向 <風景>	梅田茂樹 (武蔵大学)	Download
16：20 ～ 16：30	PSLXコンソーシアム今後の活 動予定	西岡靖之 (法政大学)	Download



第2回セミナーを開催



2001-11



PSLXセミナー：生産スケジューラの最前線

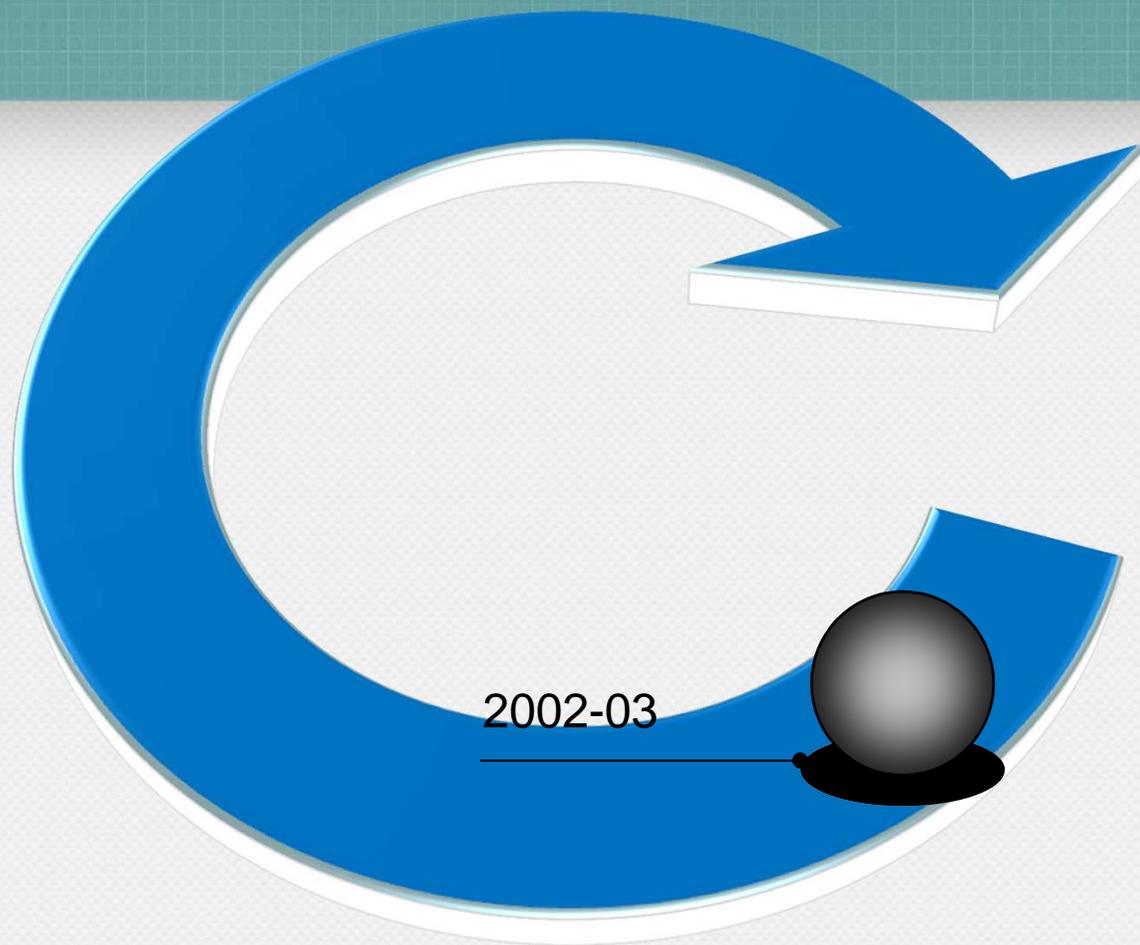
国内トップクラスの生産スケジューリングパッケージベンダーほぼ全社が一同に会し、わが国のスケジューリングパッケージ技術の最前線を紹介します。本セミナーでは、パッケージの内部構造を知り尽くした実際の企画責任者または開発責任者にご講演いただくことで、参加者全員が、この分野の現状の技術レベルと将来へ向けての課題を認識し、PSLXコンソーシアムの今後の活動に反映させていくことを目的としています。

- 日時：11月27日（火）の13:00～16:30
- 場所：アルカディア市ヶ谷
- 協賛：スケジューリング学会
- 参加者：103名（会員69名、非会員31名、報道3名）

時刻	内容	講演者	資料
13:00～ 13:20	米国APICSにおけるスケジューラソフト最前線	安田一彦（東北大学大学院 教授）	↓ Download
13:20～ 14:00	JoySchedulerによる生産スケジューリング最前線	守屋昭一郎（JTエンジニアリング 取締役SI事業部長） 陶山孝（SI営業担当次長）	↓ Download
14:00～ 14:40	ACCROADによる生産スケジューリング最前線	古賀敏生（㈱ロジックスジャパン 代表取締役社長）	↓ Download
14:50～ 15:30	DIRECTOR 5 による生産スケジューリング最前線	水野貴司（㈱シムトップス 統括マネージャー）	↓ Download
15:30～ 16:10	ASPROVAによる生産スケジューリング最前線	高橋邦芳（アスプローバ ㈱ 代表取締役社長）	↓ Download
16:10～ 16:30	PSLXによるスケジューリング標準仕様の策定状況	西岡靖之（法政大学工学部 助教授）	↓ Download



第1回フォーラムを開催



2002-03



- 日時：2002年3月19日（火）9：30～16：30
- 場所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）
- 主催：PSLXコンソーシアム、共催：スケジューリング学会
- 参加者：117名（うちコンソーシアムメンバー82名）
- 配布資料：PSLX仕様書（勧告候補案）約320ページ

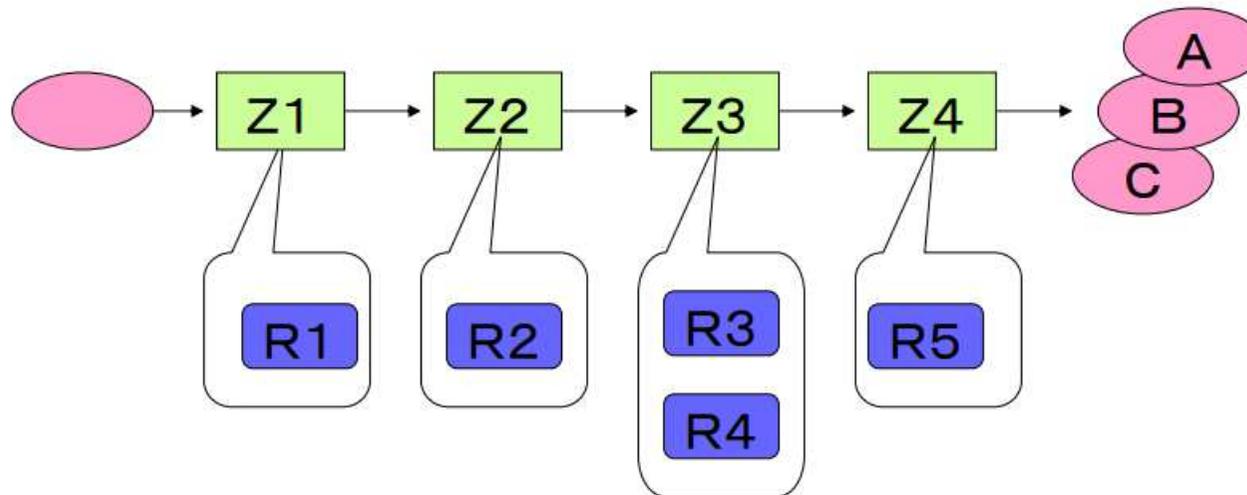
時刻	内容	講演者	資料
9：30 9：40	オープニング	安田一彦氏 （東北大学大学院教授）	
9：40 10：40	基調講演 「知産で甦れ日本の製造業」	松島克守氏 （東京大学教授）	
10：40 11：20	PSLX-01：グランドデザイン	山田太郎氏 （ネクステック㈱）	.s Download
11：20 12：00	PSLX-02：オブジェクトモデリング	児玉公信氏 （㈱エクサ）	.s Download
13：00 13：40	PSLX-03：XMLコア技術	渡辺哲弥氏 （東洋エンジニアリング㈱）	.s Download
13：40 14：40	スケジューラ実装報告（デモンストレーションを含む）		
	ASPROVA	田中智宏氏 （アスプローバ）	.s Download
	ACCROAD	古賀敏生氏 （ロジックスジャパン）	.s Download
	DIRECTORS	伊藤昭仁氏 （シムトップス）	.s Download
	JoyScheduler	三澤淳氏 （ジェイティエンジニアリング）	.s Download
14：50 15：20	PSLX統合デモンストレーション	西岡靖之氏、スケジューラベンダ各社	.s Download
15：20 16：20	パネルディスカッション テーマ：「生産スケジューラとインターネットは製造業を救えるか？」 司会 西岡靖之氏（法政大学）	森 良樹氏（岩井機械工業） 手島歩三氏（MASPアソシエーション） 奥村直正氏（イーマニファクチャリング） 浜口猛智氏（マイクロソフト） 福田好朗氏（法政大学）	
16：20 16：30	クロージング	山田太郎（ネクステック㈱）	



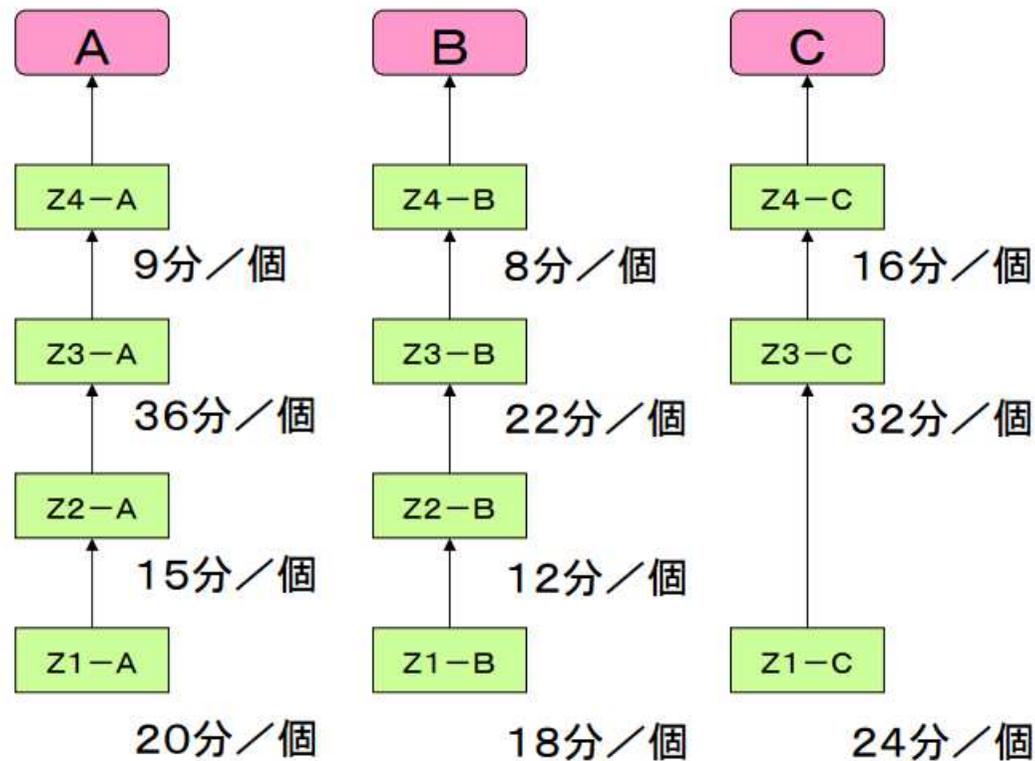
各社デモ用の共通問題

フローショップ型
代替設備なし
副資源なし
ロット分割、統合なし

製品数3
工程数4
設備数5



オペレーション名と作業時間



その他パラメータ

使用設備

工程	A	B	C
Z1	R1	R1	R1
Z2	R2	R2	-
Z3	R4	R4	R3
Z4	R5	R5	R5

切替時間

設備名	切替時間
R1	60分
R2	30分
R3	30分
R4	90分
R5	120分

1. スケジュール期間 自:2002年3月1日
至:2002年5月31日
2. 現在時刻 2002年3月19日13:00
3. 割付可能時間帯 2002年3月25日(月)8:00~

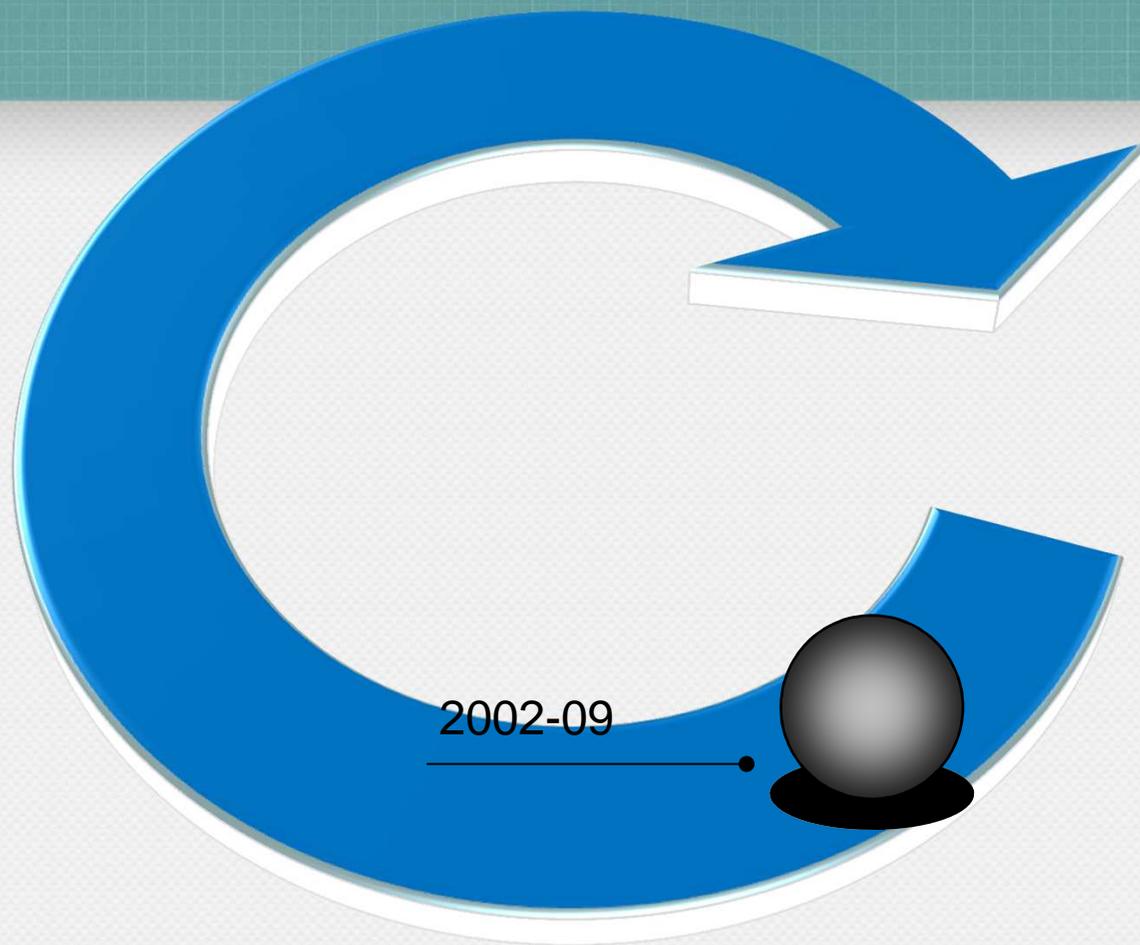


注文の内容

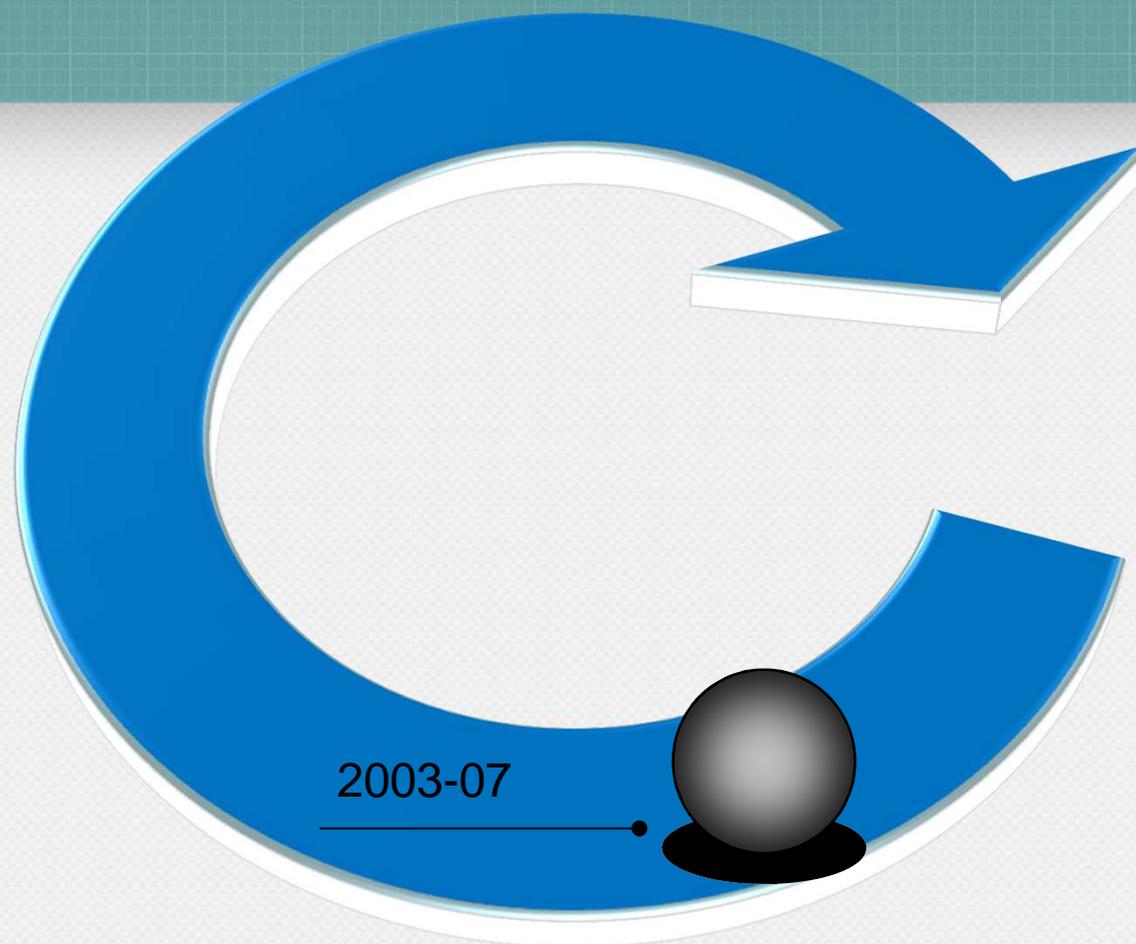
コード	品目	数量	納期	顧客
K1	A	30	27日9:00	高橋産業
K2	B	25	27日12:00	西岡商事
K3	C	10	27日18:00	古賀販売
K4	A	20	27日18:00	伊藤流通
K5	B	40	28日9:00	ミサワ工業
K6	C	12	28日9:00	西岡商事
K7	A	5	28日12:00	高橋産業
K8	C	32	28日12:00	古賀販売
K9	B	16	28日18:00	ミサワ工業



仕様書勧告案（PSLX-00）を公開



PSLX技術仕様書が、勧告されました。
※PSLX仕様初版





PSLX 技術仕様書

APS による 製造業のグラントデザイン

PSLX-01

<報告>

Version 1.0

PSLX-01

勸告版

Version 1.0

PSLX コンソーシアム

2003 年 6 月

<http://www.pslx.org>



PSLX 技術仕様書

ガイダンス

PSLX-00

勸告版

Version 1.0

PSLX-00

<報告>

Version 1.0

PSLX コンソーシアム

2003 年 6 月

<http://www.pslx.org>



第一部：製造業のグランドデザイン（PSLX-01）

- 第1章 ビジネス環境と課題
- 第2章 APSの定義、製造業アーキテクチャー
- 第3章 対象とするビジネスモデルとシナリオ
- 第4章 核となる技術要素
- 第5章 必要とする新たなユースケース

第三部：XMLコアテクノロジー（PSLX-03）

- 第1章 プロトコルの定義
- 第2章 メッセージの一覧
- 第3章 PSLXの記述例
- 第4章 PSLX仕様詳細（解釈）
- 第5章 PSLXスキーマ定義

第二部：オブジェクトモデリング（PSLX-02）

- 第1章 APSの相対的位置付け
- 第2章 ユースケース記述
- 第3章 オブジェクトモデル
- 第4章 システムアーキテクチャ
- 第5章 インタフェース記述

第四部：統一用語辞書（PSLX-00）

- 用語あいうえお順
- 用語索引



つまり、ビジネスモデルの策定にあたっては、企業が持っている戦略や戦術を、顧客との関係、サプライヤーとの関係、競合他社との関係、内部の資源や資産との関係の中で位置付け、最終的にそれらを指標や課題の形で形式化します。そして、そこであげられた指標や課題を構造化し、企業がおもつ個々の機能との関係を明確に定義します。ここでは、真の顧客は誰なのか、真の競合相手は誰なのか、守り育てるべき真の経営資源は何なのか、といった定義も非常に重要です。

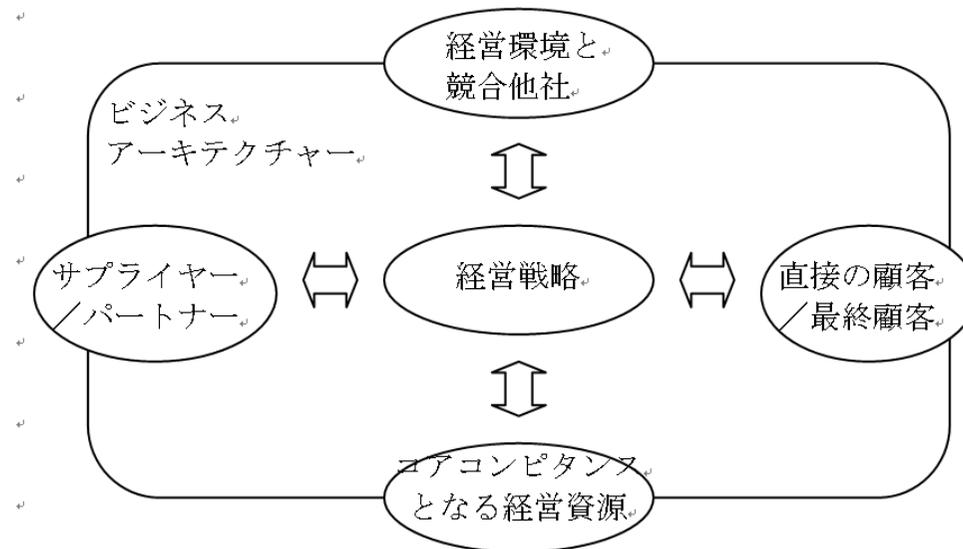
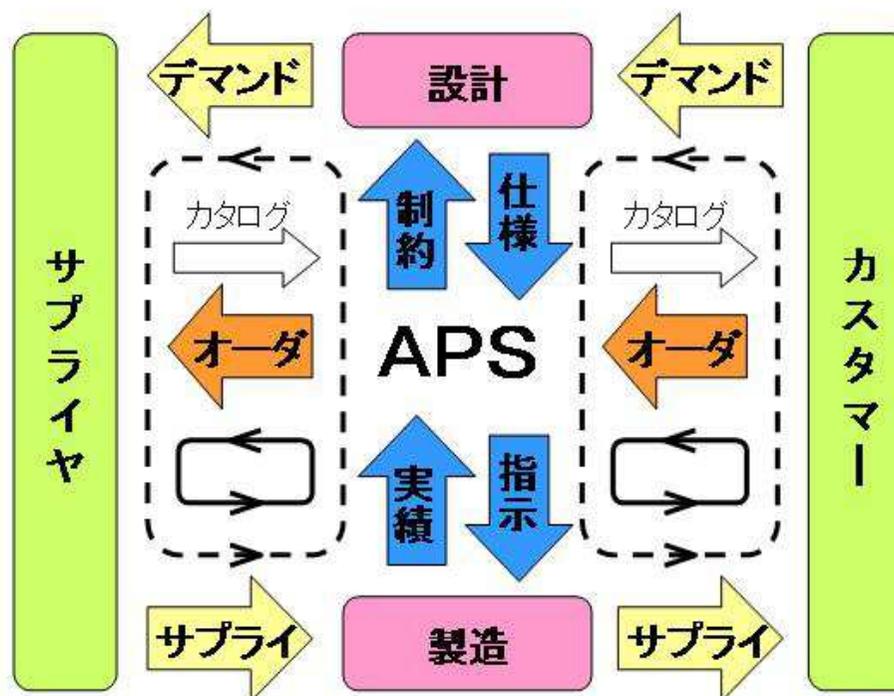


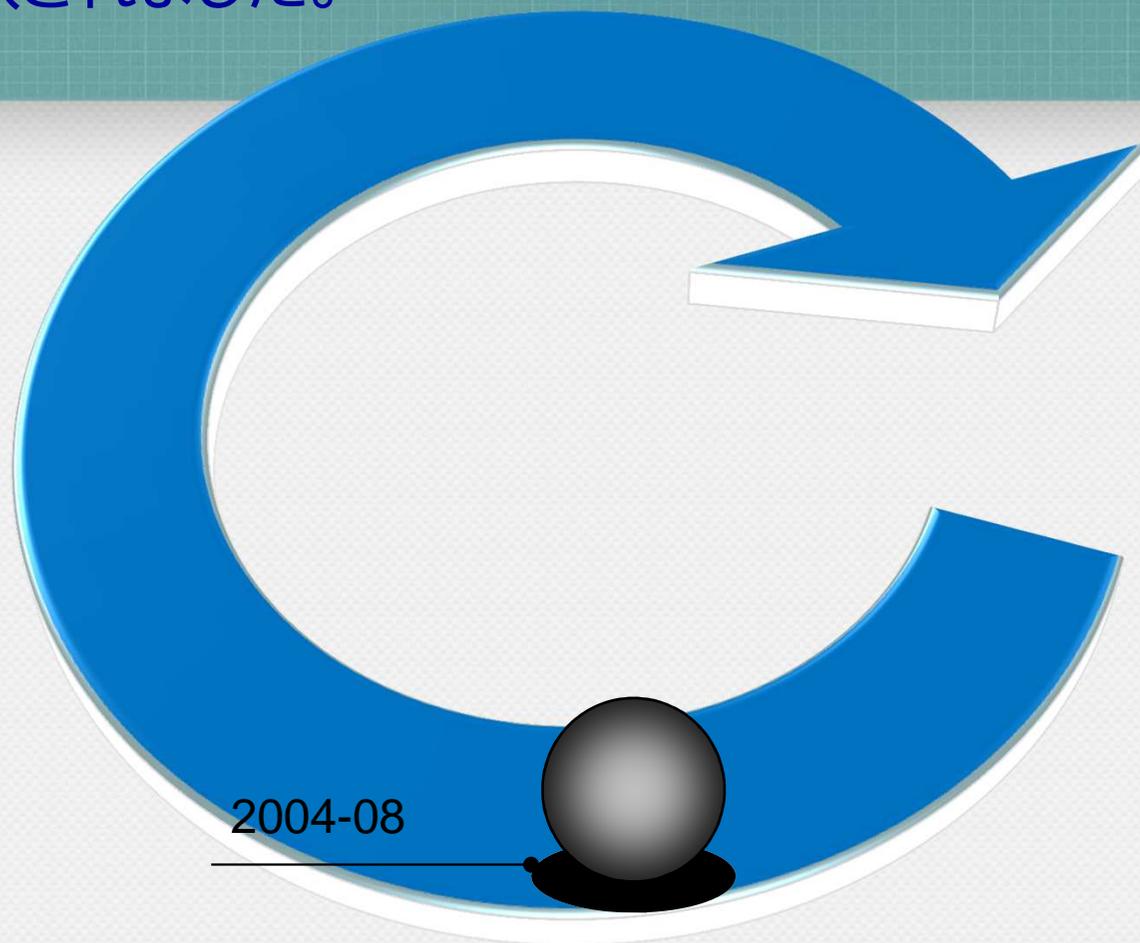
図1 ビジネスモデルの基本要素



APSのスコープ



ISA S95パート3に、
PSLX技術委員会で検討した内容を24項目提案し
多くが採択されました。



2004-08



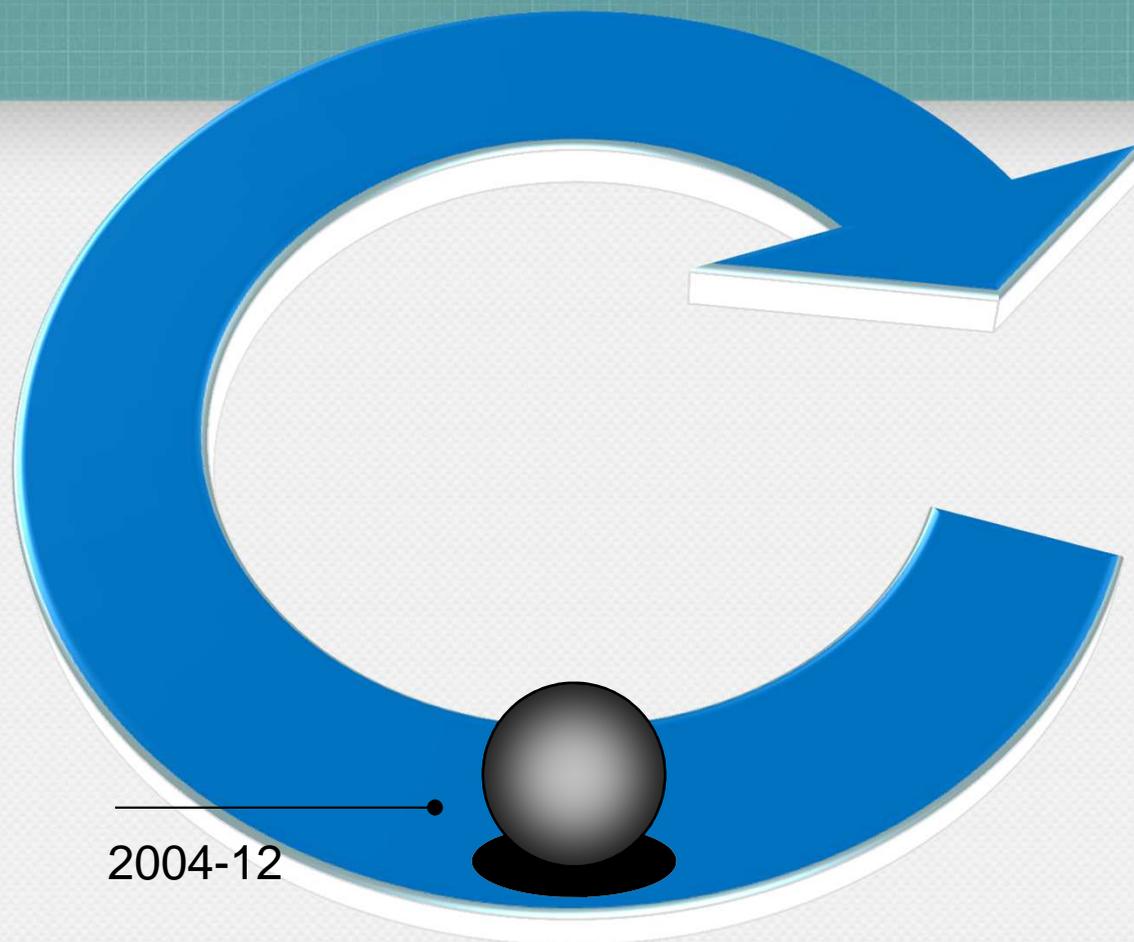
国際標準化活動

PSLX標準仕様は、現在、ISOやIECといった国際規格として標準化が進められています。2006年12月に、IEC62264パート3が国際標準として認定され、その一部として、PSLX標準仕様が採用されています。

これまでの経緯

- 2003年 4月 ISO TC184/SC5 (韓国) にて提案、国際標準化活動開始
- 2003年 6月 PSLX技術仕様書バージョン1の勧告
- 2003年12月 PSLX技術仕様書バージョン1英語版公開
- 2003年10月 TC184/SC5アドホック会議 (ワシントン)
- 2004年 5月 WBF会議 (シカゴ) にてISA95のチュートリアルを受ける
- 2004年 8月 ISA95 (パディュー大学) 出席、パート3のコメント提出
- 2004年11月 JWG15 (ワシントン) 出席、PSLX提案を原稿候補にする
- 2004年12月 ホワイトペーパー (英語版) 公開
- 2005年 1月 PSLX標準仕様をベースに原稿を投稿
- 2005年 7月 JWG15 (ストックホルム) PSLX投稿原稿を議論
- 2005年11月 JWG15 (ワシントン) PSLX原稿を議論、PSLX原稿が採択
- 2006年 1月 JWG15 (パリ) パート3の投票用ドラフト完成
- 2006年 3月 IEC62264パート3がDIS (CDV)投票
- 2006年 6月 JWG15 (ジェノバ) パート5のNWIとPSLXコメント議論、パート4の議論
- 2006年10月 JWG15 (ヒューストン) にてパート3が承認、パート5の日本提案議論
- 2006年12月 IEC委員会よりIEC62264パート3標準化決定の通知

PSLXホワイトペーパー
「APSの基本アーキテクチャーとシステム実装技術」
を公開

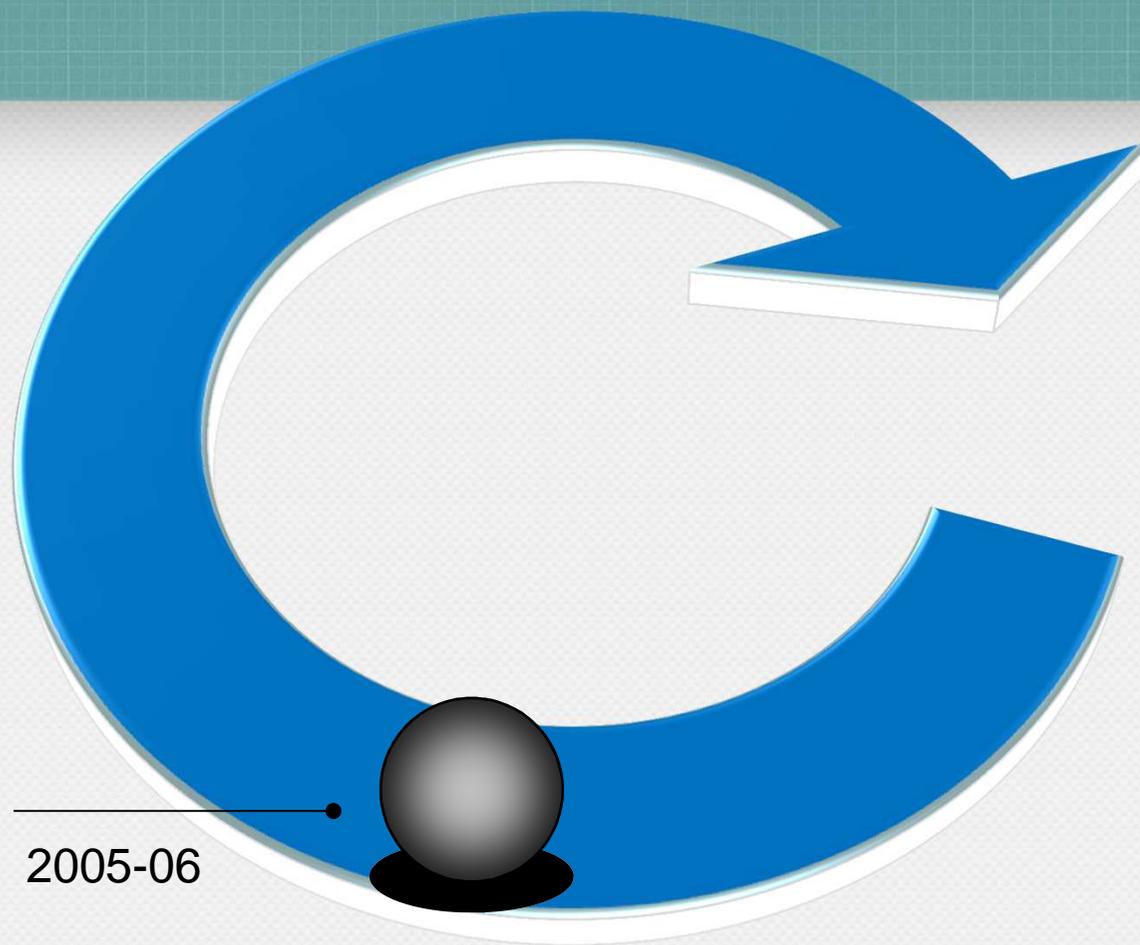


2004-12

目次

序章	ホワイトペーパーの目的	1
第一章	APS の概念と現状技術	3
	APS が必要となる背景	3
	APS の特徴	5
	APS の現状技術	8
第二章	情報システムアーキテクチャー	11
	APS のための情報システム	11
	意思決定の特徴	14
	プランニングとスケジューリング	16
	意思決定の階層と APS	18
	既存の情報システムとの対応	21
	製造業の分類とビジネス戦略	25
第三章	業務アクティビティ	29
	業務アクティビティとは	29

PSLX技術フォーラム2005開催



2005-06

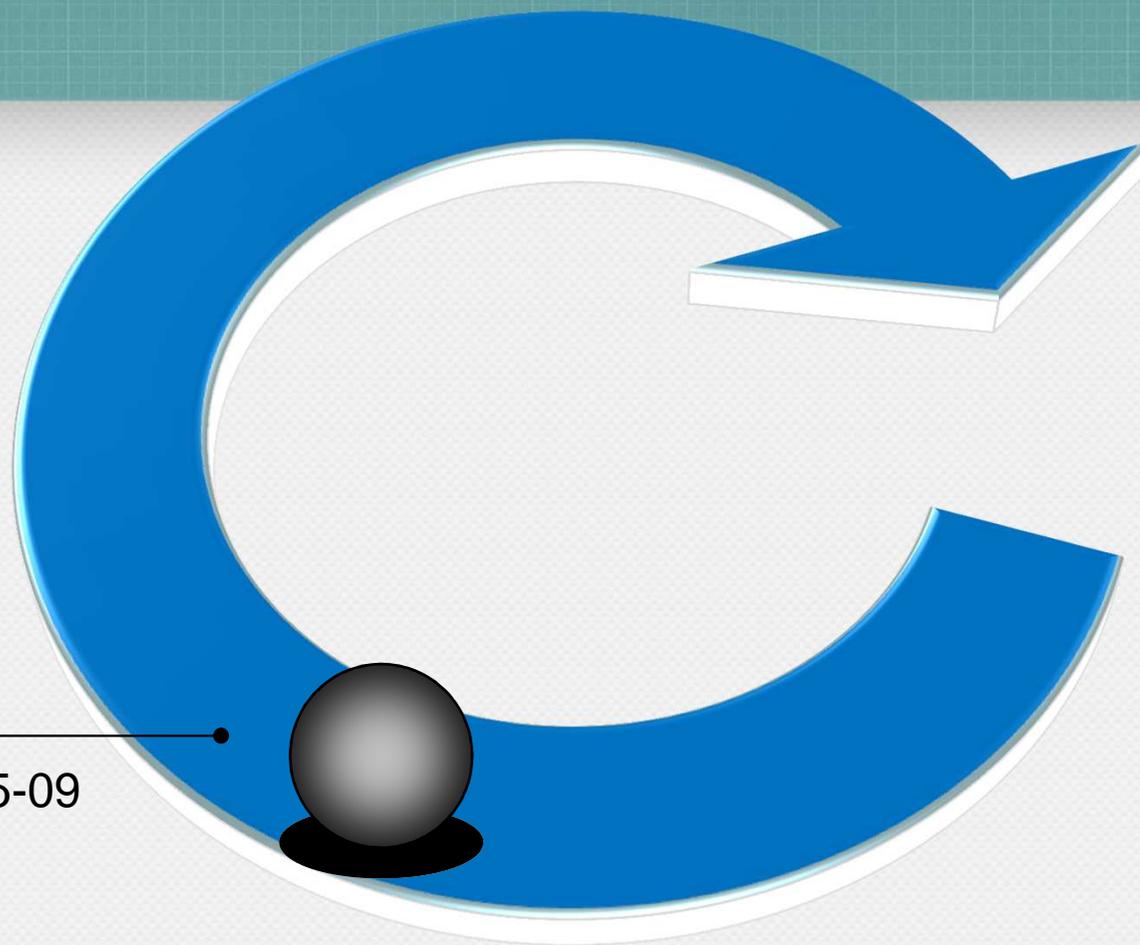


- 13:30 開催挨拶
安田一彦（東北大学大学院 PSLXコンソーシアム会長）
- 13:40 PSLX国際化に対応したPSLX次期技術仕様の概要
西岡靖之（法政大学工学部）
- 14:30 OASISにおける生産計画・スケジューリングの標準化
和田浩一（OASIS PPS技術委員会エディター）
- 15:20 質疑応答 司会 安田一彦
- 15:40 休憩
- 15:50 半導体製造工程における原価管理オブジェクトの開発
尾畑裕（一橋大学商学部）
- 16:40 製造現場インターフェースのためのMESXの取り組み
渡部裕二（三菱電機）
- 17:30 質疑応答 司会 西岡靖之
- 17:50 閉会挨拶
中野一夫（構造計画研究所）
- 18:00 閉会

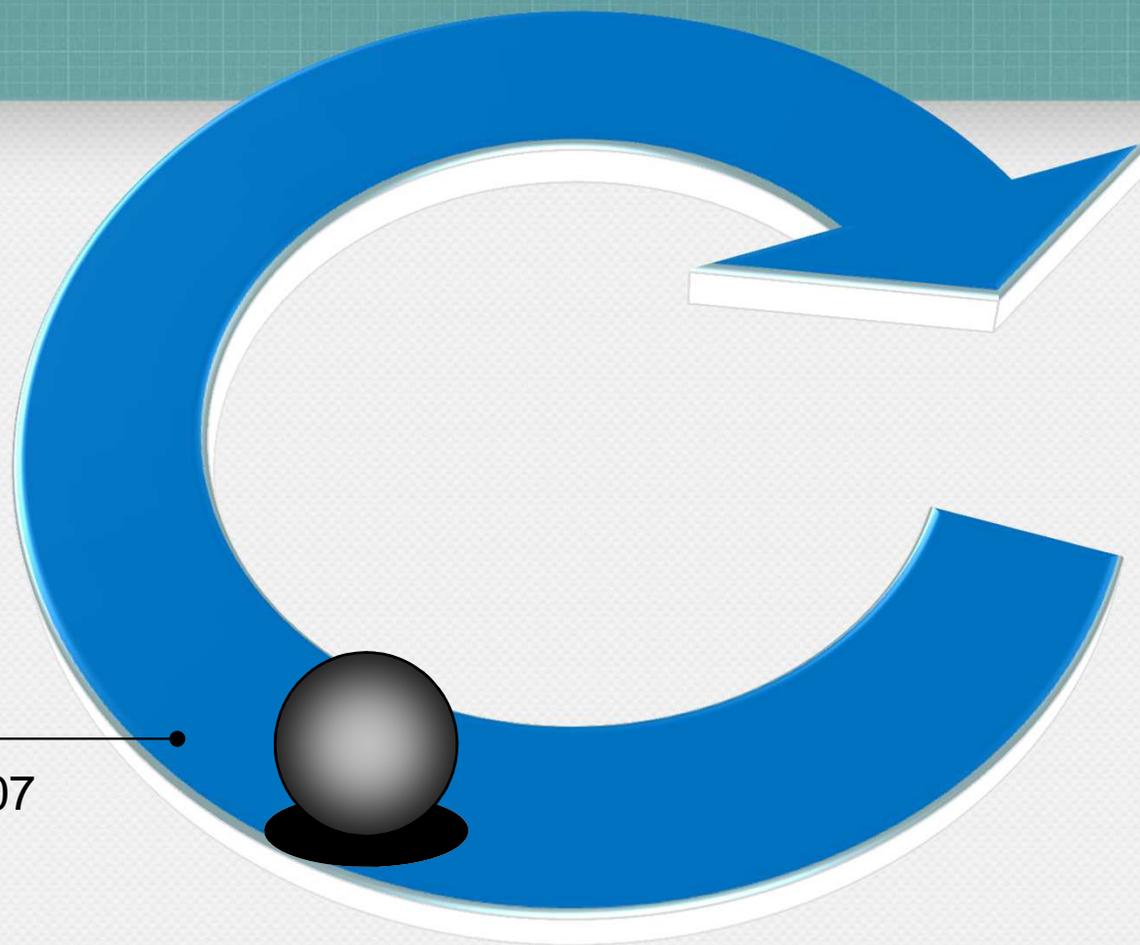


PSLXバージョン2仕様書の議論がスタートし、 ドラフトの第一版が公開

2005-09

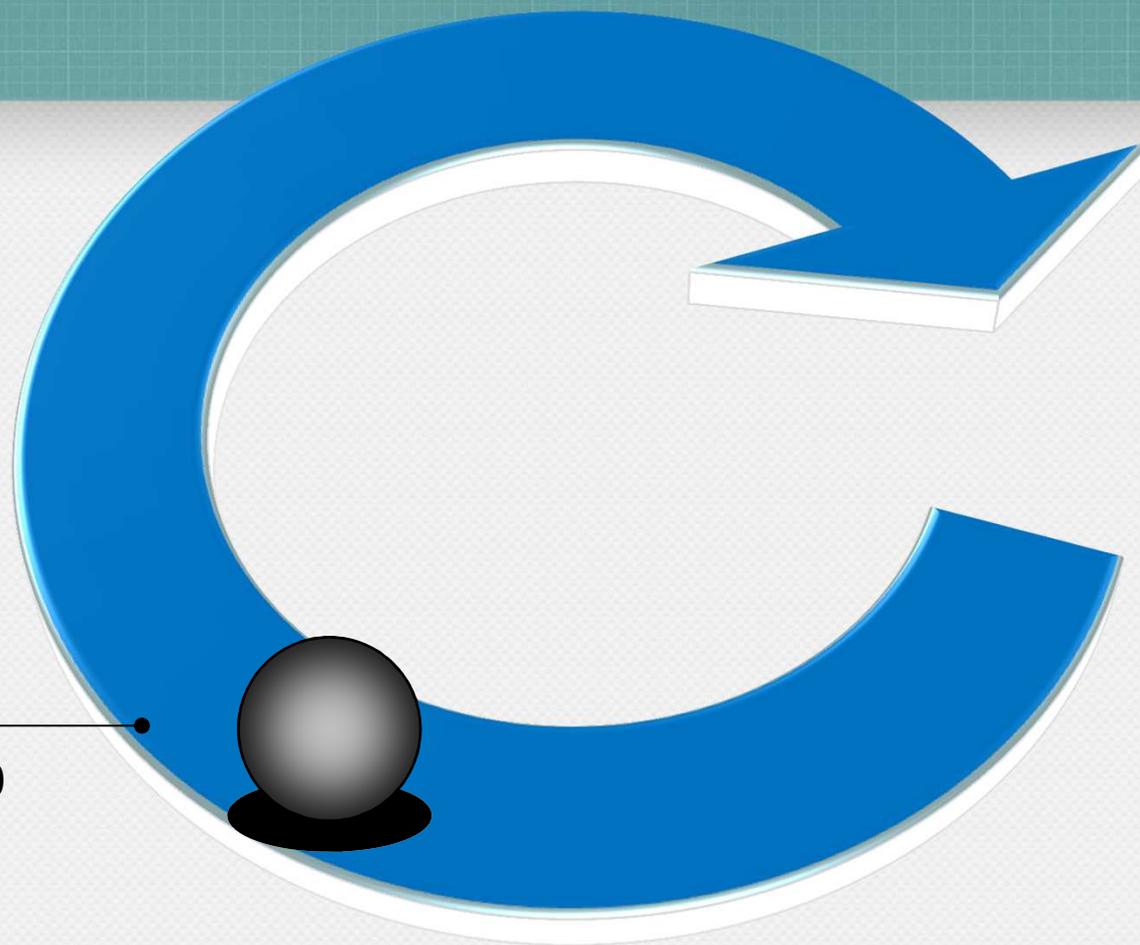


PSLXコンソーシアムは名称新たに 「ものづくりA P S 推進機構」として再出発



2006-07

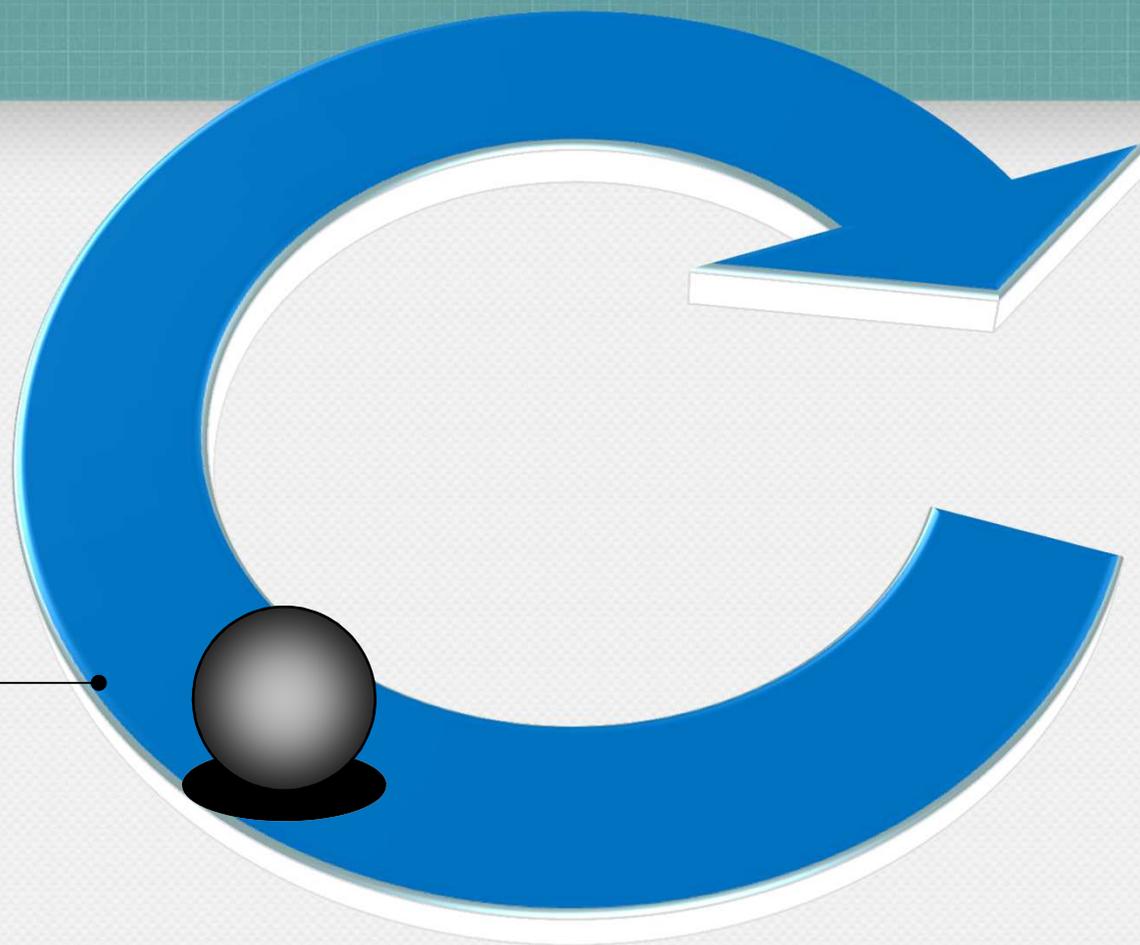
PSLX対応のRDBスキーマの第一バージョンが完成



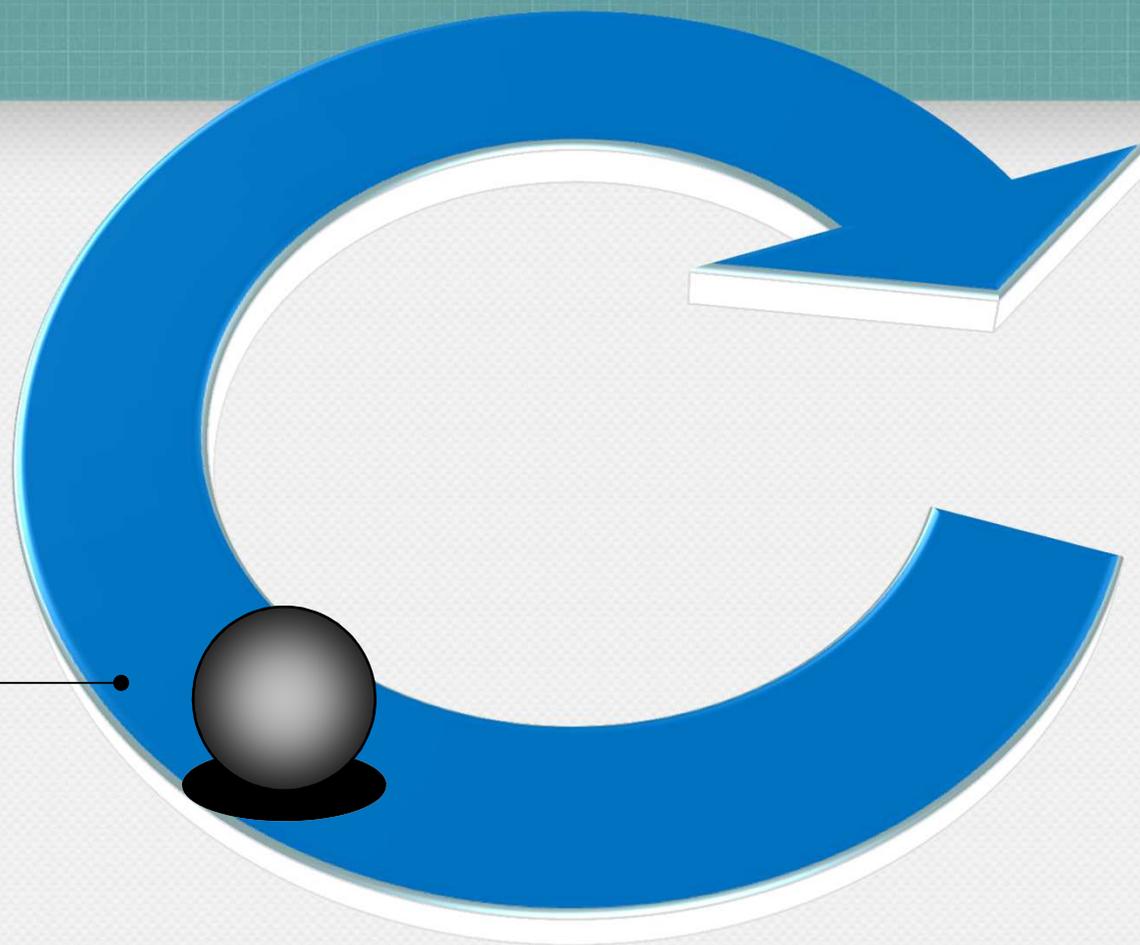
2006-10

APSOMは特定非営利活動法人として
東京都より認証を受け、NPO法人としての活動がスタート

2007-06



PSLX標準仕様がパブリックレビュー開始

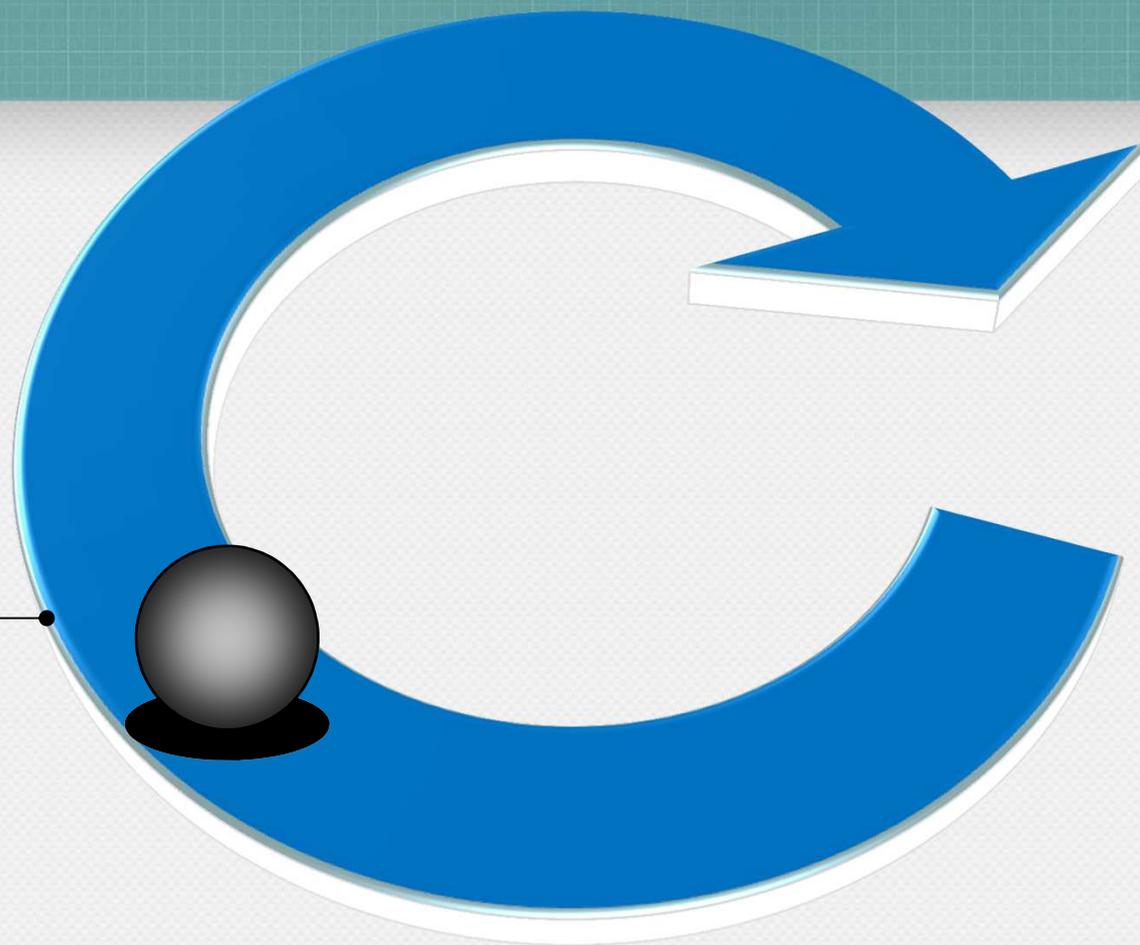


2007-07



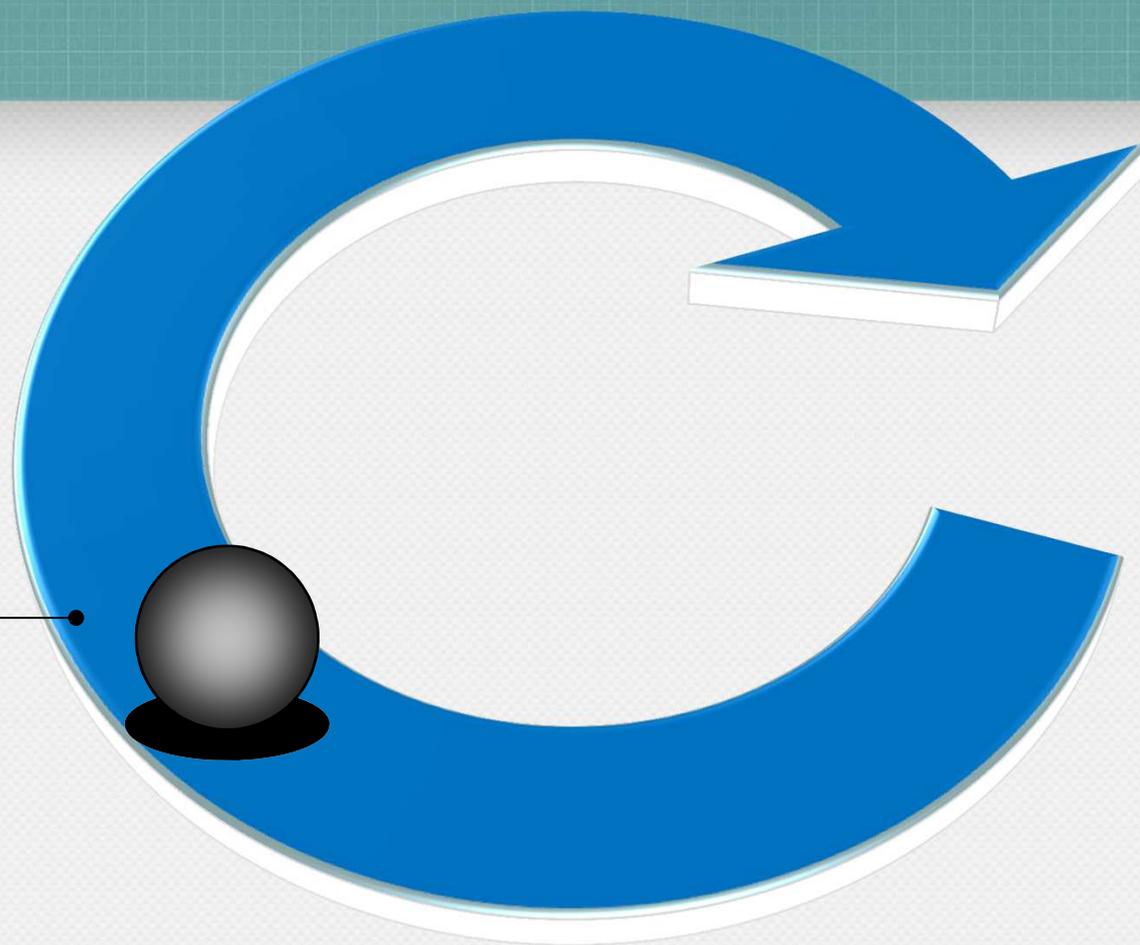
PSLX標準仕様バージョン2の勧告版を公開 ※PSLX仕様第二版

2008-01



PSLX標準仕様バージョン2チュートリアルを開始

2008-04



第一部：エンタープライズモデル

1001	APSが必要となる背景	2008年4月6日公開
1002	APSの現状技術	2008年4月6日公開
1003	PSLXが提案するAPSの特徴	2008年4月6日公開
1004	製造業の評価モデル	2008年4月6日公開
1005	製品／工程／生産アーキテクチャ	2008年4月6日公開
1006	製造業のビューと情報の構造	2008年4月6日公開
1007	製造業のさまざまな分類方法	2008年4月6日公開
1008	組織的意思決定のキーワード	2008年4月6日公開
1009	計画とスケジューリングの関係	2008年4月6日公開
1010	企業における意思決定階層	2008年4月6日公開
1011	APSにおける意思決定の構造	2008年4月6日公開
1012	進化に柔軟な情報システムとは	2008年4月6日公開
1013	エージェント指向のアーキテクチャ	2008年4月6日公開
1014	既存のERPとの対比	2008年4月6日公開

第二部：業務アクティビティモデル

2001	APSの基本構造	2008年5月3日公開
2002	計画管理の視点での整理	2008年5月3日公開
2003	エンジニアリングライフサイクルの視点での整理	2008年5月3日公開
2004	サプライチェーンの視点での整理	2008年5月3日公開
2005	アクティビティで利用する業務情報まとめ	2008年5月3日公開
2011	業務ブロックをパッケージでまとめる	2008年5月3日公開
2026	ユースケースと情報の入出力	2008年5月3日公開

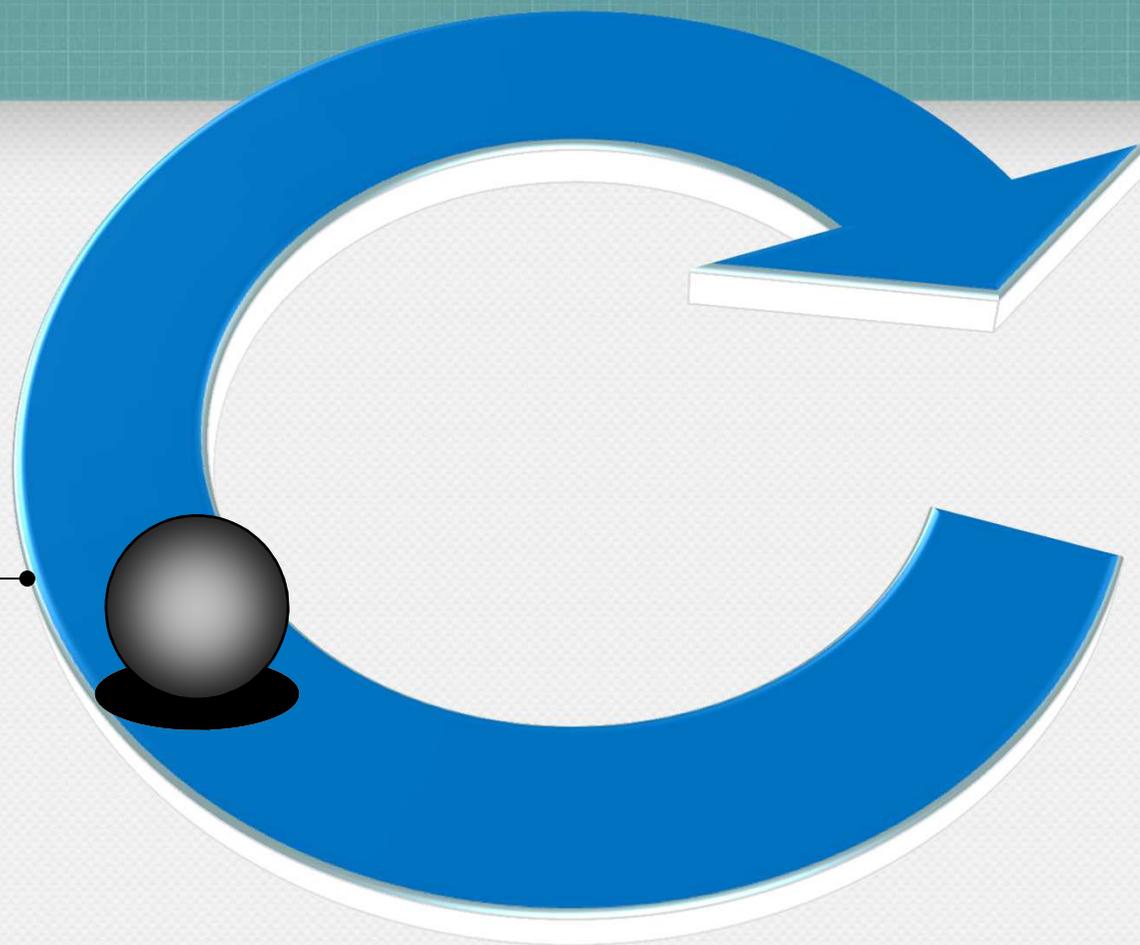
第三部：業務オブジェクトモデル

3001	業務オブジェクトとは	2008年5月3日公開
3002	生産品目に関する情報の定義	2008年5月3日公開
3003	生産資源に関する情報の定義	2008年5月3日公開
3004	プロセスに関する情報の定義	2008年5月3日公開
3012	取引先に関する情報の定義	2008年5月3日公開
3013	計画に関する情報の定義	2008年5月3日公開
3005	オーダーに関する情報の定義	2008年5月3日公開
3006	モデルの階層構造を意識する	2008年5月4日公開
3007	APSのためのオブジェクトの全体構造	2008年5月4日公開
3008	現場業務のためのオブジェクト	2008年5月4日公開
3009	オブジェクト一覧	2008年5月4日公開



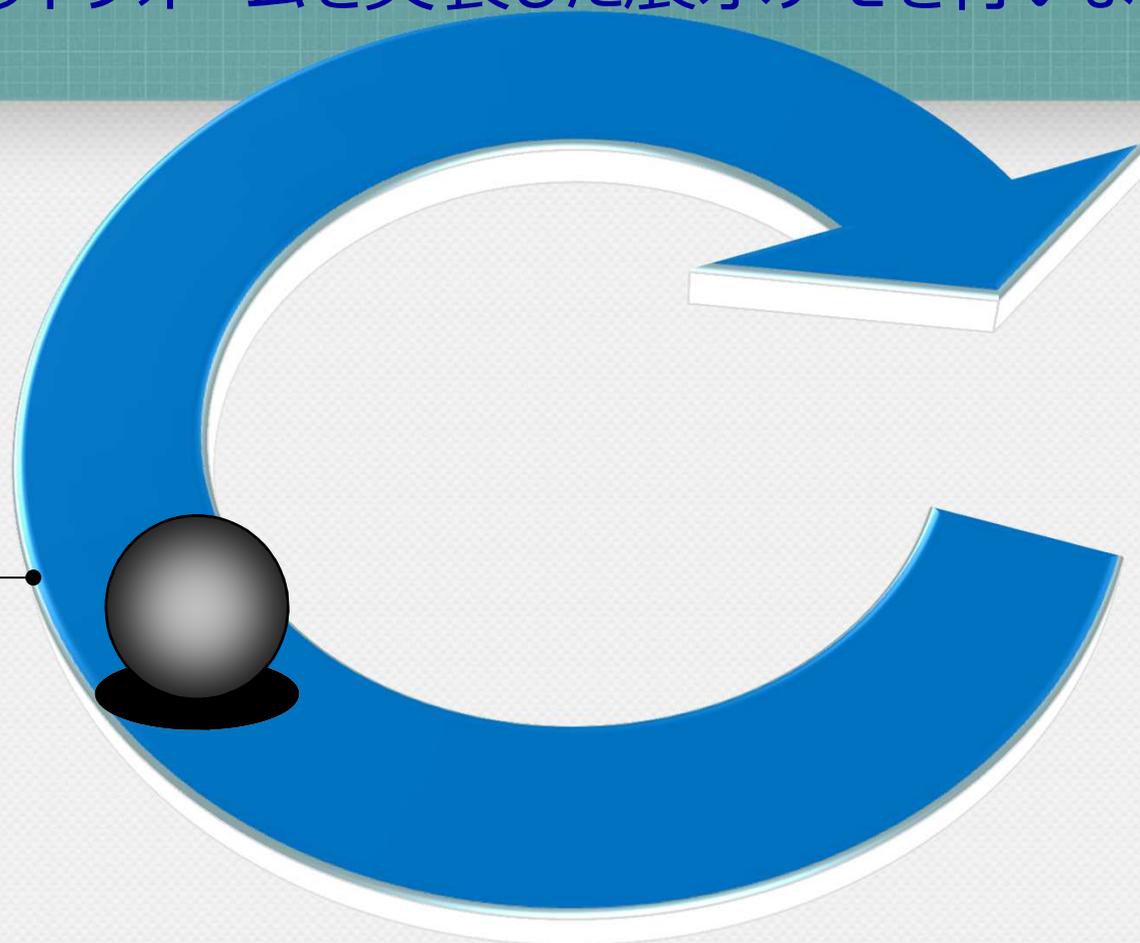
PSLXホワイトペーパー 2 を公開しました。
また、同時に、「PSLXプラットフォーム計画」を開始しました。

2008-06



9月10日から3日間、東京ビックサイトにおいて、
MOF2008(マニュファクチャリングオープンフォーラム)に参加し、
PSLXプラットフォームを実装した展示デモを行いました。

2008-09



MOF2008 製造技術連携フォーラム ～連携デモ～

- 開催日** 2008年9月10日（水）～9月12日（金） 10:00～17:00
- 場所** 東京ビックサイト（東京国際展示場） 東1ホールの
「生産と設備管理のソリューション展2008」会場内
- 主催** I A総談会（I A：Industrial Automation）
- 参加団体**
 ◎スープ工場：
ものづくりAPS推進機構（APSOM）、製造業XML推進協議会（MfgX）文書連携プロジェクト、FAオープン推進協議会（FAOP）、日本OPC協議会
- ◎カフェオレ工場：
ものづくりAPS推進機構（APSOM）、製造業XML推進協議会（MfgX）MESXジョイントプロジェクト、ORIN協議会
- 協力団体** XMLコンソーシアム
バーチャル・エンジニアリング・カンパニー（VEC）
- 展示概要** 模擬工場内および各模擬工場との情報・計測制御データの接続連携デモ
 ◎スープ工場：粉末スープの製造工場を模擬して、種々の運転制御ケースにおける情報連携のデモ
 ◎カフェオレ工場：カフェオレ製造工場とその輸送を模擬して、種々の運転制御ケースにおける情報連携のデモ
- 検討状況**



◎スープ工場連携デモ 検討会



◎カフェオレ工場連携デモ 検討会



設計製造ソリューション展にて、
PSLXプラットフォームのコンセプト、技術仕様、
そして対応ソフトウェア一式を公開し、
PSLXプラットフォームを実装した展示デモを行いました。

2009-06





現場発 "IT カイゼン" 用ツール群

PSLK プラットフォーム

NPO 法人ものづくり APS 推進機構



APSOM

異なる企業のソフトウェアがつながる！



個別受注の製造可否判断と原価見積

製造＝販売の動的連携と適時計画修正

個別仕様品の外部委託とスケジューラ連携

企業合併における基幹系ITシステム統合

FAライン直結によるラインアウト品の動的管理

標準マスタの動的更新と再スケジューリング

基準日程計画の精度向上と詳細スケジューラ連携

MESとスケジューラ連携による効率的現場管理



PSLXプラットフォーム

PSLX関連書籍

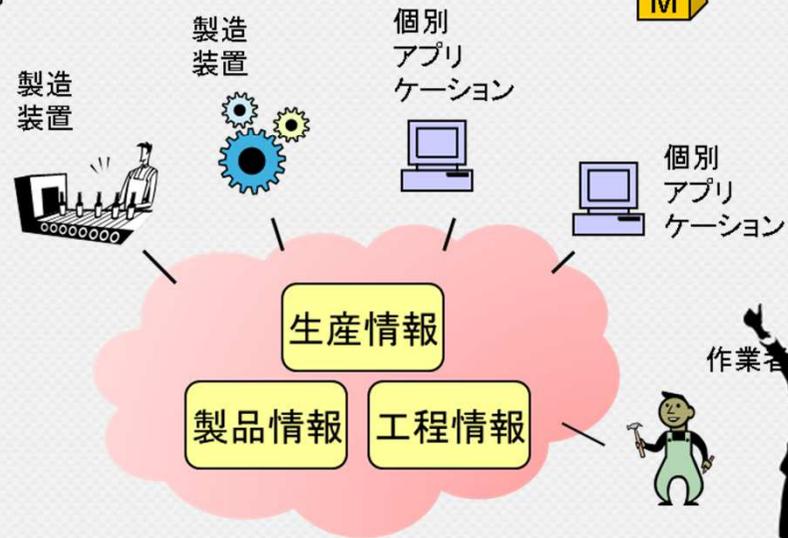
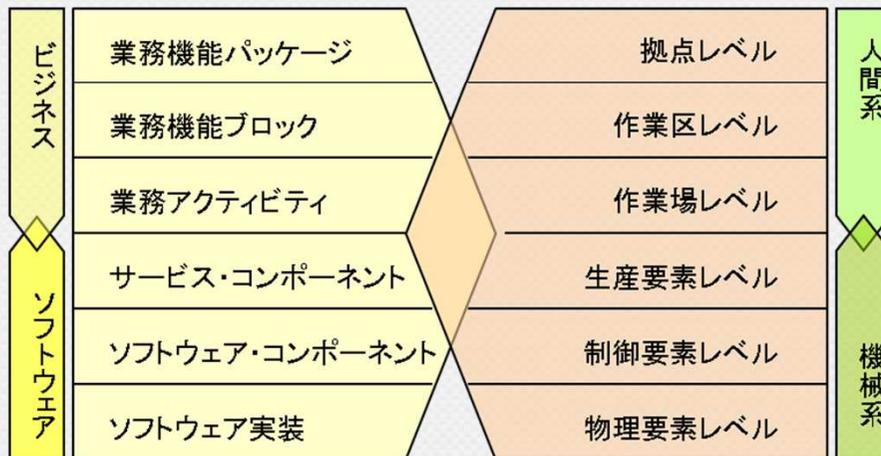
- 現場発“ITカイゼン”マニュアル(全4部)
- 共通コンポーネント実装マニュアル(全4部)
- PSLX標準仕様書V2(全6部)
- OASIS PPS仕様書(日本語版:全3部)

PSLXアプリケーション
ソフトウェア

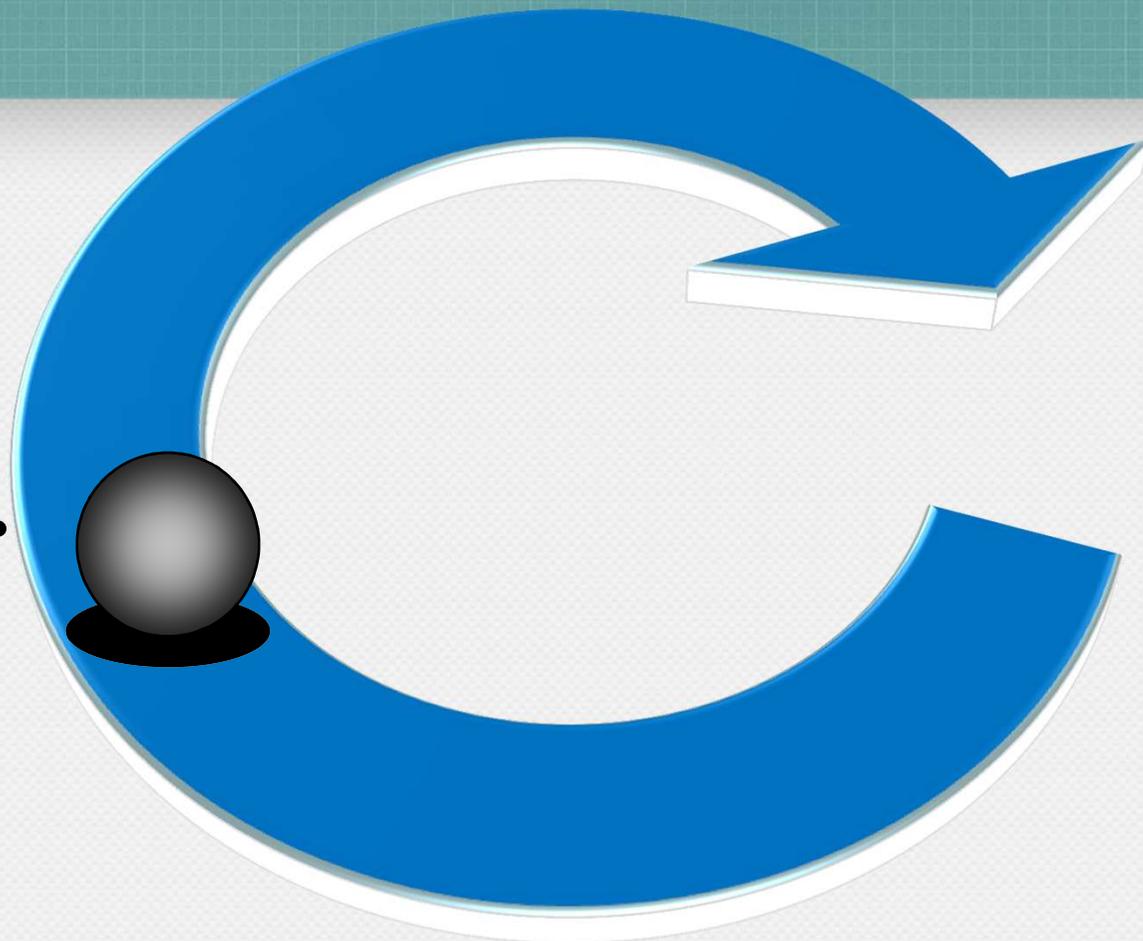
PSLX
ソフトウェア
コンポーネント

IEC/ISO 62264.3
OASIS PPS/CS1

PSLX概念モデル
PSLXオントロジー



PSLXホワイトペーパー 3 PSLXプラットフォームの目的と概要 を公開

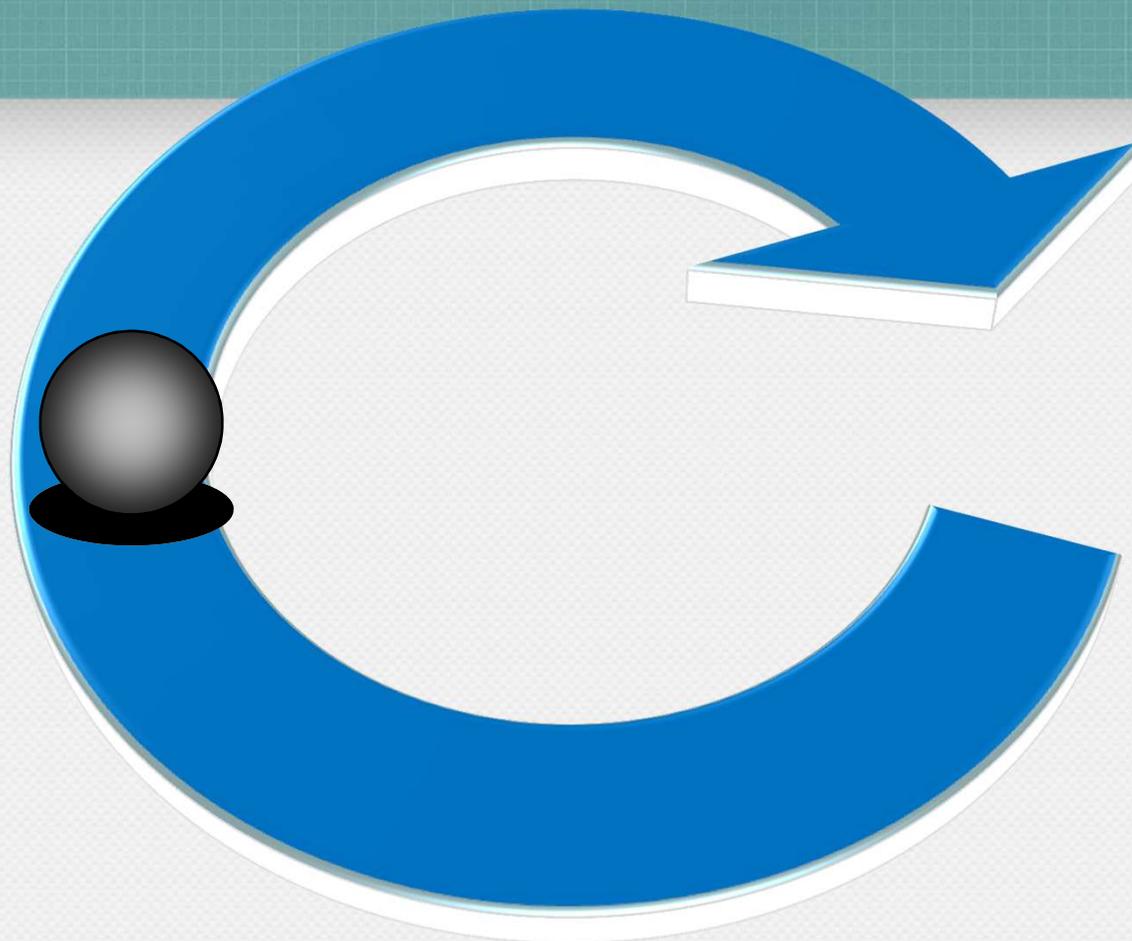


2009-06



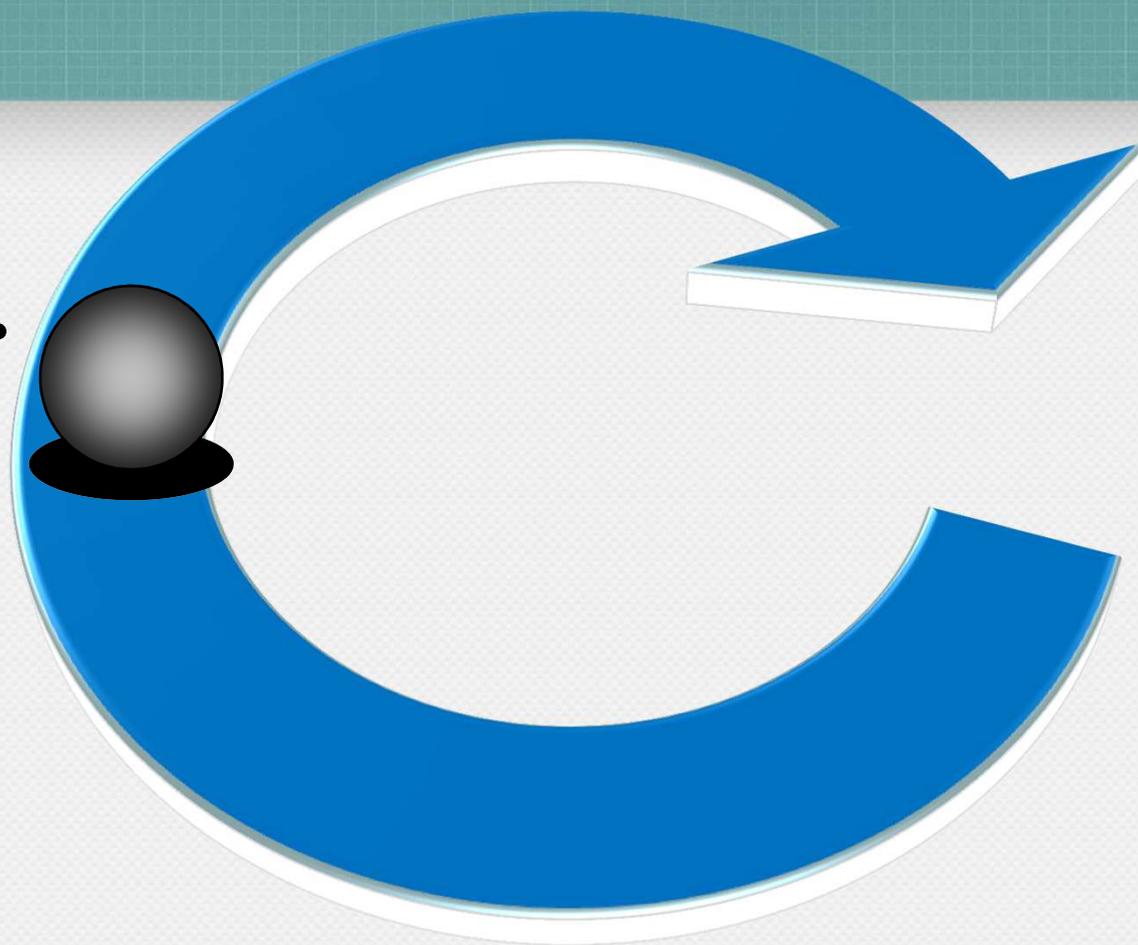
「ホワイトペーパー2010」と
「APSOM元気が出る無償アプリケーション」を公開。

2010-11



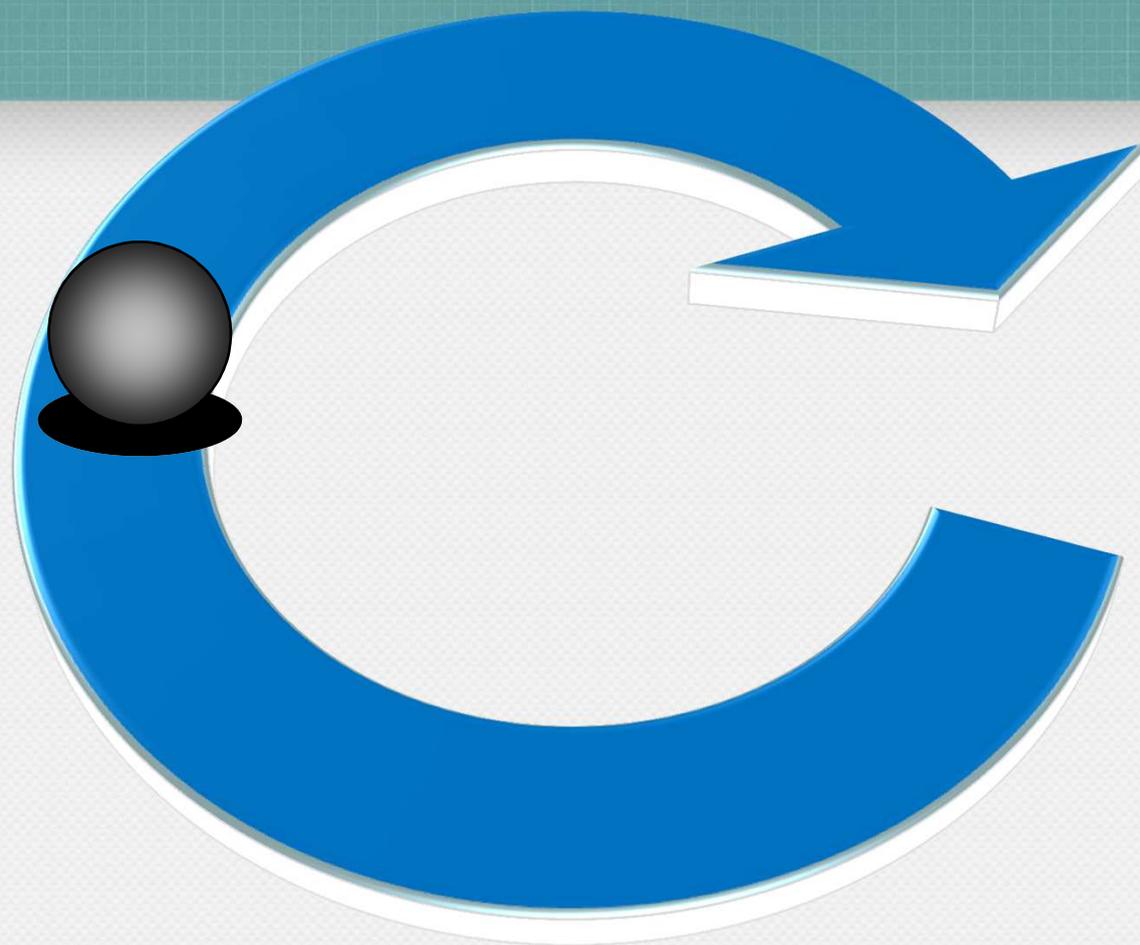
東京都の平成 2 3 年度補助事業として採択。

2011-07



生産システム見える化展出展。
可視化・整流化・ITカイゼン・コーナー企画協力。

2011-11



講演1（11月16日）

中堅・中小製造業の現場情報システムは自分で作れ！

西岡靖之／法政大学デザイン工学部教授

講演2（11月17日）

見える化生産システムの設計技術（ものづくりPDSCの見える化しくみの構築）

安藤成之／ABCコラボレーション代表取締役

講演3（11月18日）

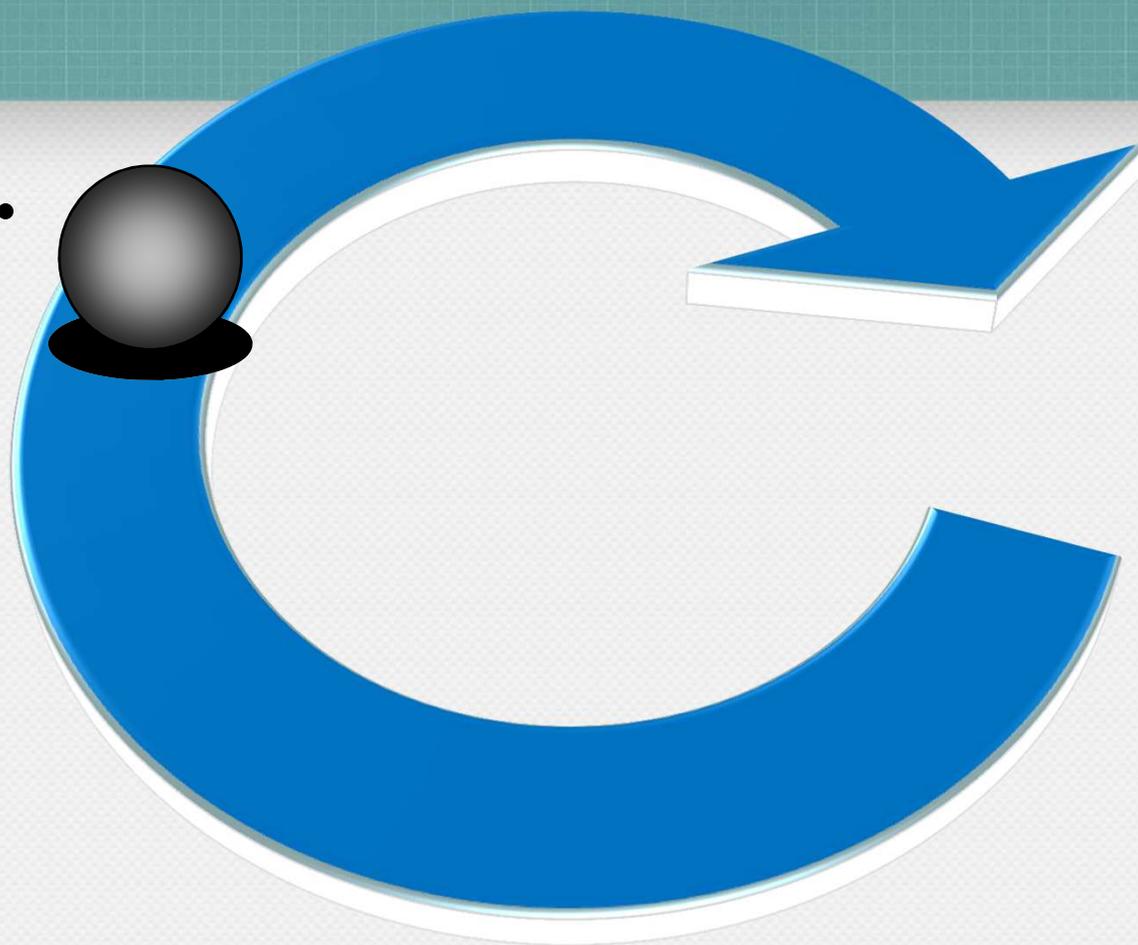
”ITカイゼン”による中小製造業の引合～見積～生産業務支援

川内晟宏／プロセス経営研究所代表



生産システム見える化展出展。
可視化・整流化・ITカイゼン・コーナー企画協力。

2012-11

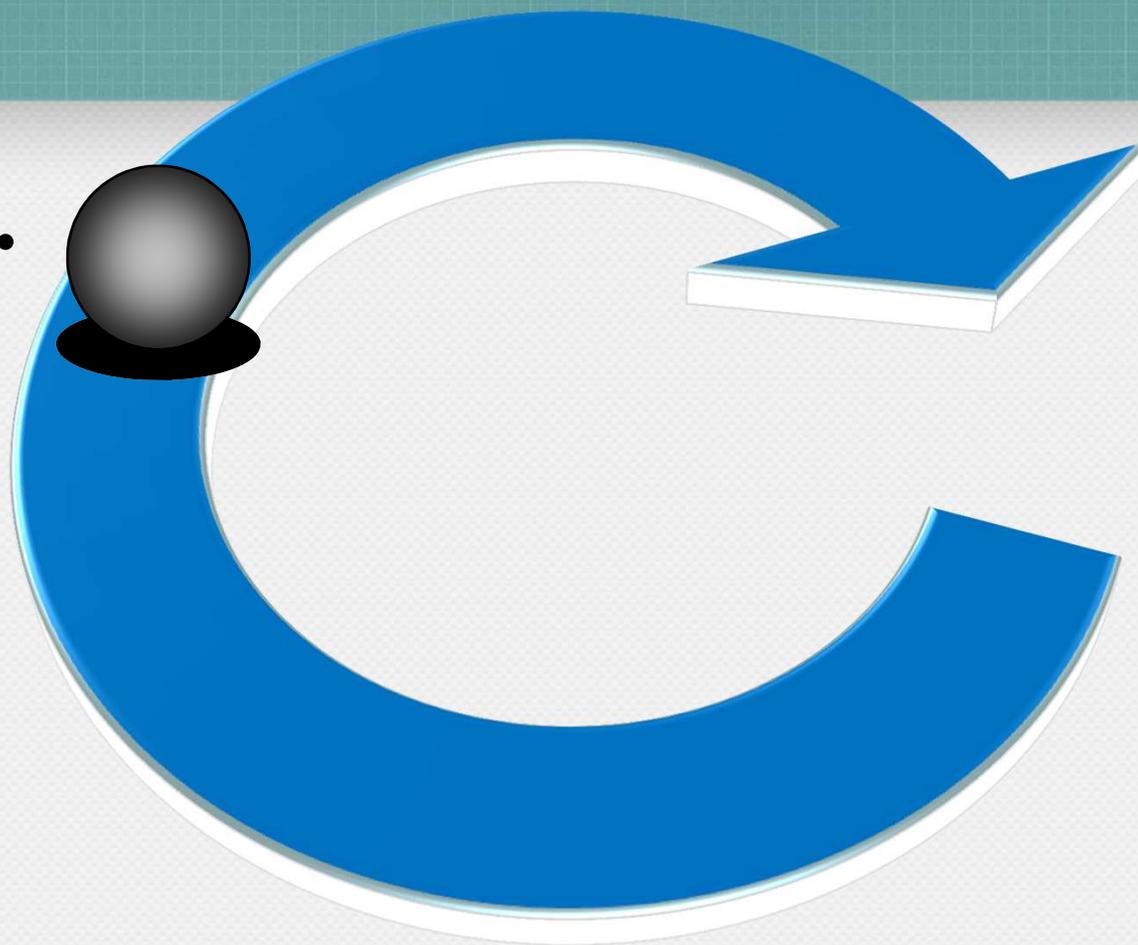


	11/14(水)	11/15(木)	11/16(金)
特別講演 11:00~11:50	特別講演① 「中小企業が減れば 日本も減る」 政策研究大学院大学 特任教授 橋本 久義 様	特別講演② 「ものづくり企業のヒト・組織の活性化 特定非営利活動法人ものづくりAPS 推進機構 理事長 トヨタ自動車 社友 黒岩 恵 様	特別講演③ 「グローバルものづくりと情報活用」 (中小企業にも使えるITの活用) 玉川大学 客員教授 東京大学大学院ものづくり経営研究センター 特任研究員 奥 雅春 様
セッション 13:00~13:40	セッションD1 テーマ未定 藤精機 様	セッションE1 FOAが現場を軽くする(軽くてスピー ディーに使えるシステム) smart-FOA研究会 副代表 吉澤 隆司 FOAは自律かつ全体最適化が可能なシステム コンセプトとして、変化の過渡期の今の時代に マッチしている。現場改善から組織感度の向上に まで通じ、他社をも圧倒するオンリーワンな ビジネススピードの実現をサポート。	セッションF1 サプライチェーンAPSシステム 「ADAP」のご紹介 構造計画研究所 製造ビジネスソリューション部 技術担当部長 野本真輔 講演から、生産・物流までのサプライチェーン全体 の計画・指示・実績・在庫を、Web上で一元管理す るシステムです。SCM全体の「つながり」の見える 化とAPSロジックによる最適化を実現します。
セッション 14:00~14:40	セッションD2 「ものづくりにおけるPDSCサイクル の見える化のしくみの構築」 ものづくりAPS推進機構/ ABCコラボレーション 代表取締役 安藤 成之 様	セッションE2 「情報連携のためのIT活用事例から 見えてきた日本のものづくりの次の一 手とは？」 アブストウェブ 法政大学 デザイン工学部 教授 西岡 靖之 様	セッションF2 テーマ未定 アスプローバ 様
セッション (14日、15日) 15:00~15:40 クロージング 講演(16日) 15:00~15:50	セッションD3 「フレキシブル生産を実現する現場 とは~企業活動のまずさが在庫に 現れる~」 TCS 代表取締役 竹内 証造 様	セッションE3 「ものづくりの原点を考える日産流 現 場力強化のアプローチ」 日産自動車 生産事業本部 NPW改善コンサルティ ング室 室長 武尾 裕司 様	クロージング講演 「モノづくりこそニッポンの碧」 伊藤製作所 代表取締役 伊藤 澄夫 様



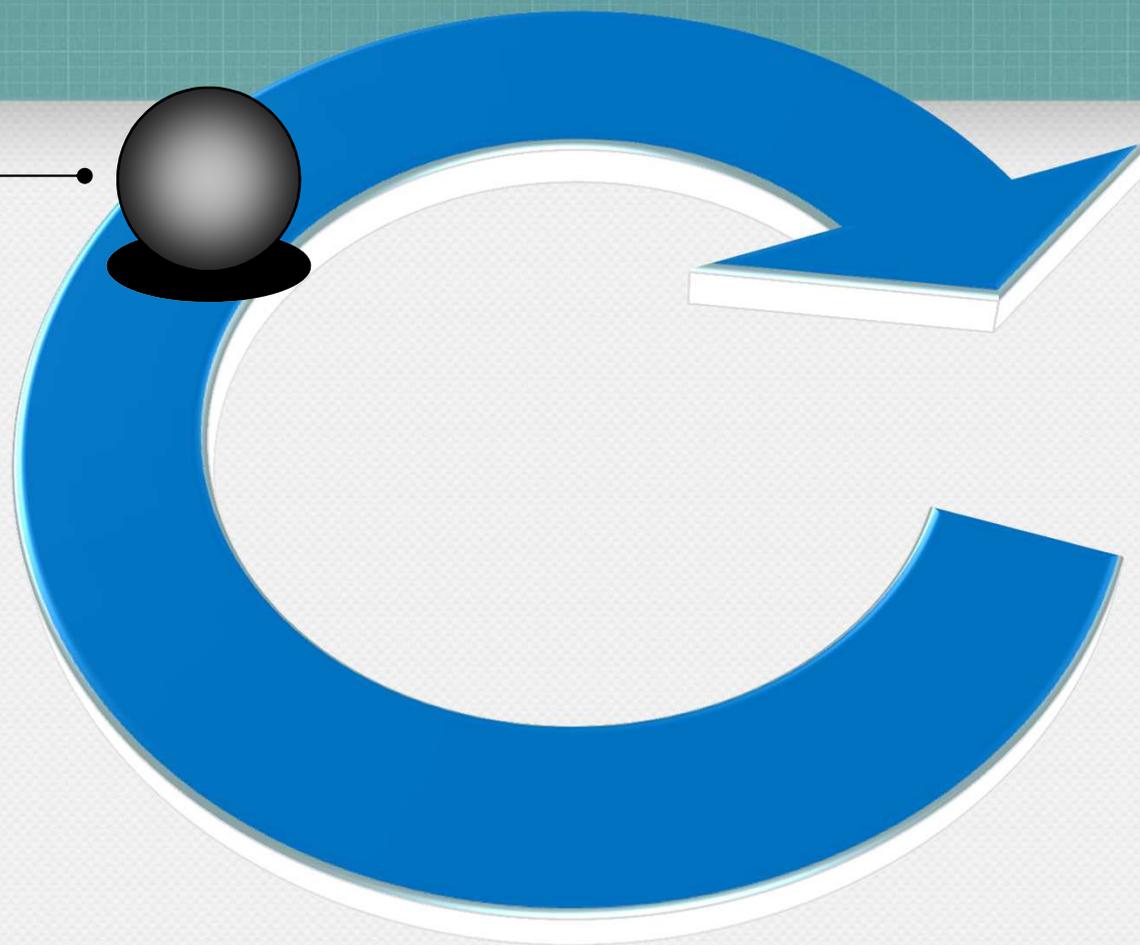
生産システム見える化展出展。
可視化・整流化・ITカイゼン・コーナー企画協力。

2012-11



生産システム見える化展出展。
可視化・整流化・ITカイゼン・コーナー企画協力。

2013-11



計画・同期化とITカイゼン・コーナー ～明日の見える化と情報連携が企業を強くする～

企画協力：特定非営利活動法人ものづくりAPS推進機構 2013年11月1日現在

2013年10月30日（水）	2013年10月31日（木）	2013年11月1日（金）
<p>基調講演 計画同期生産による製造業の新展開ー不 確実性を減らすための計画同期化の手法と は</p> <p>法政大学 デザイン工学部</p>	<p>大田区めつき工場における“連携のス メ”ー差別化戦略としてのITカイゼンへの 取り組み</p> <p>電化皮膜工業株式会社</p>	<p>現場主体の小さなITカイゼンが目指す、製 販一体の大きな業務革新</p> <p>株式会社今野製作所</p>
<p>計画同期化ワークショップー基準日程計 画で業務を同期化させる手法を学ぶ</p> <p>NPO法人ものづくりAPS推進機構</p>	<p>モノづくりの見える化（PDCA）を実現す る計画（スケジューリング）と同期化した MESの開発～事例に基づく開発の考え方と 留意点について解説する～</p> <p>株式会社ABCコラボレーション</p>	<p>つながりの見える新しい生産管理現場の意 義が変わり大きな成果に</p> <p>ニチハ株式会社</p>
	<p>つながりの見えるAPS生産管理システム ADAP（エイダップ）ご紹介</p> <p>株式会社構造計画研究所</p>	<p>生産計画/管理とMESと生産スケジューラ の連携</p> <p>アスプローバ株式会社</p>
<p>コンテキサーが拓く、企業間取引の同期化 と、会計システム連携の世界</p> <p>株式会社アルファパーチェス</p>	<p>日本を代表するT社、M社の改善秘話</p> <p>株式会社TSC</p>	<p>日産流の生産方式（NPW）における同期 生産の概要と改善の進め方</p> <p>日産自動車株式会社</p>
<p>サプライチェーンの強者戦略を考える～あ なたの会社にトヨタ生産方式が向かない5 つの理由</p> <p>日揮株式会社</p>	<p>製造プラットフォームの情報活用みえる化 からモデル化への進化</p> <p>村田機械株式会社</p>	<p>個別受注生産のための営業/設計/生産の 業務改革</p> <p>NPO法人ものづくりAPS推進機構</p>

※会社名・団体名は開催当時のものです。



PSLX3プラットフォーム・プロジェクト開始

※PSLX仕様第三版

2014-06



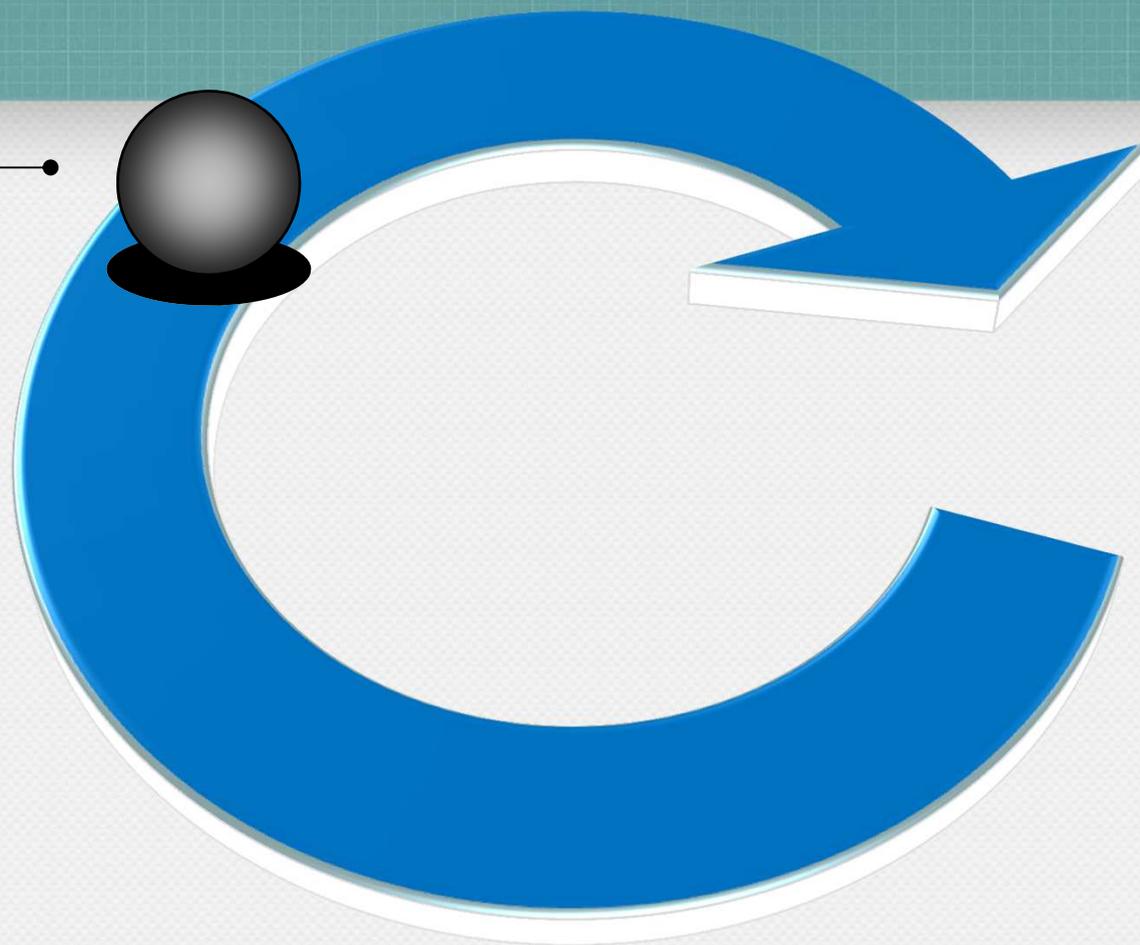
APSサミット

開催年度	
2013年	APSサミット2013 シンポジウム
2012年	APSサミット2012 シンポジウム
2011年	APSサミット2011 シンポジウム
2009年	APSサミット2009 シンポジウム
2008年	APSサミット2008 シンポジウム
2007年	第一回APSサミット
2006年	PSLX技術フォーラム2006
2005年	PSLX技術フォーラム2005
2004年	PSLX技術フォーラム2004
2003年	第二回フォーラム
2002年	第一回フォーラム
2001年	PSLXコンソーシアム設立大会



APSサミット2012 APSOMアワード

2012-11



株式会社 荏原製作所 様

受賞理由

受注生産型の大型産業機械における日程管理システムを、PSLXプラットフォーム認定のSPBOMとAsprovaを使って生産管理に適用し、製造工程における計画作成ノウハウの蓄積と計画の見える化によって、迅速な納期回答、生産リードタイム短縮およびコスト削減といった効果をあげました。

以上の理由から、荏原製作所を2012年APSOMアワード受賞企業といたします。

株式会社 今野製作所 様

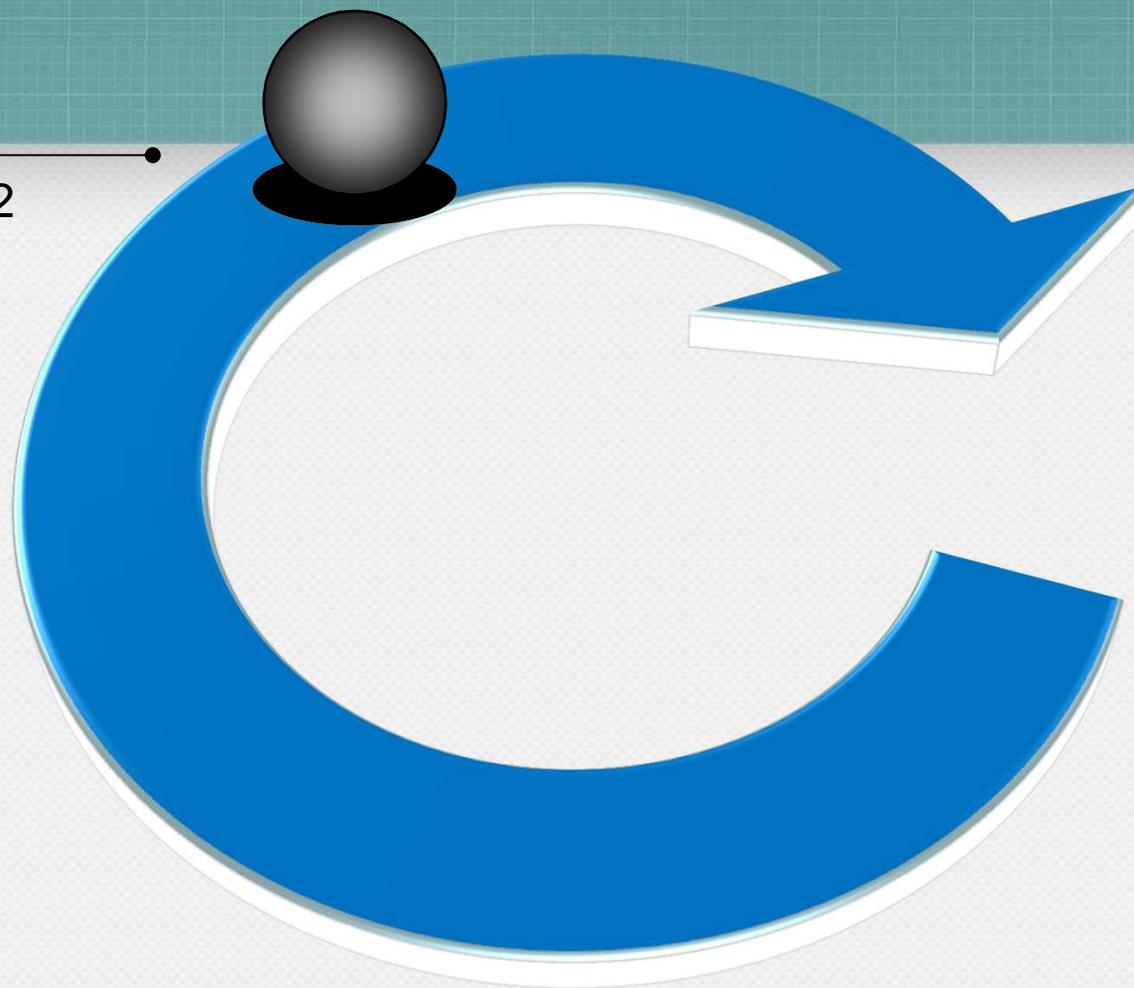
受賞理由

株式会社今野製作所は、板金加工、および油圧機器製造販売を行う中小製造業として、社内の情報化に積極的に取り組み、業務担当者が自分でシステム構築をおこなうI Tカイゼンを実践し、成果を上げました。さらに、この取組を、I Tカイゼンを行う多くの製造業にとっての先進事例として講演を行い、I Tカイゼンの普及にも取り組みました。



APSサミット2013 APSOMアワード

2013-12



小島プレス工業 株式会社 様

受賞理由

小島プレス工業株式会社は自動車部品製造業として自動車業界や中小企業が利用しやすい「共通EDI」を提案・構築し、次世代業界EDI標準の確立に貢献しました。さらにその「ITカイゼン」ノウハウを異業種や企業内にも展開するなど、我が国産業の生産性向上に大きく貢献されました。

以上の理由から、小島プレス工業 殿を2013年度APSOMアワード受賞企業といたします。

電化皮膜工業 株式会社 様

受賞理由

電化皮膜工業株式会社は、めっき化工、アルマイト化工を行なう中小製造業として、完全受注設計生産で超多品種少量短納期に対応しながらも、これまではアナログ的であった処理をひとつずつ I T カイゼンしていくことで大きな効果を上げました。こうした努力とその成果は、同じ境遇にある多くの製造業にとって貴重な事例となるものです。



PLM PDM



設計関連システム



設計BOM



図面/図書管理
システム

うまく関連が持てない



製造関連システム



調達



製造指示



スケジューラ



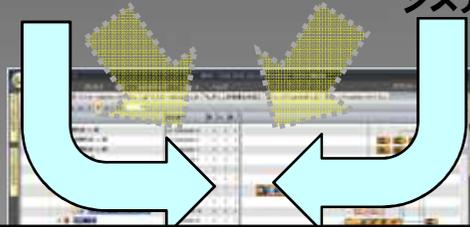
設計関連システム



設計BOM



図面/図書管理
システム



図面と工程情報を関連付け

調達指示

スケジューリング

製造指示

製造関連システム



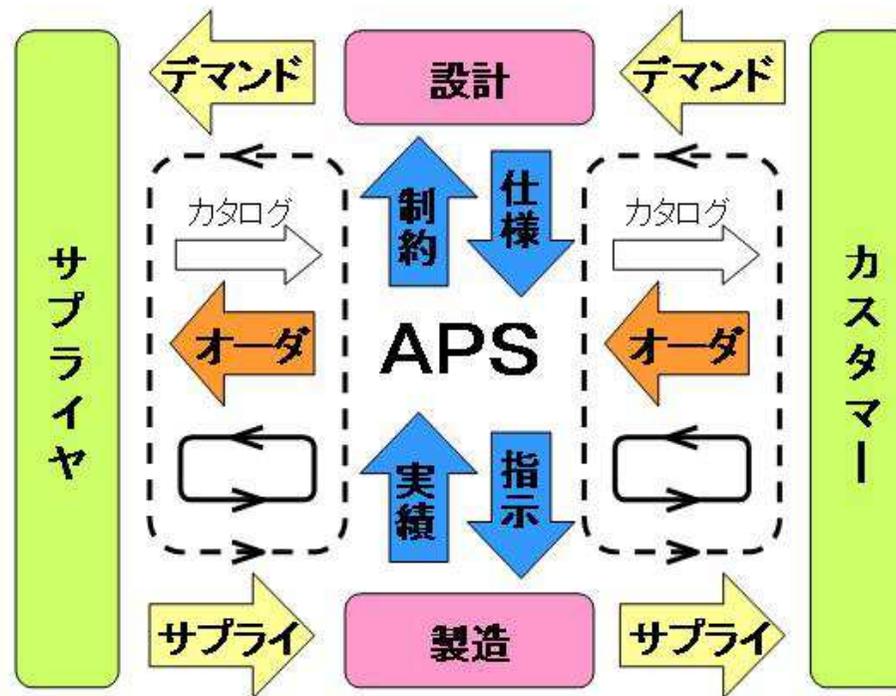
調達

製造指示

スケジューラ



APSのスコープ



PSLX3プラットフォーム プロジェクト 開始



ご静聴ありがとうございました。

apsom.org/

pslx.org/

www.facebook.com/apsom

twitter.com/apsom_pslx

